

第3章 大学生の就職活動と地域移動

1. はじめに

本章では、大学生の就職活動の地域による相違に注目し、就職活動に関する地域の特徴を明らかにするとともに、高校から大学、大学から就職、という2時点の地域移動のパターンを抽出し、移動パターンに従ったキャリア形成支援の課題について検討することを目的とする。

大学生の就職活動のプロセスや結果は、性別、専攻、大学の選抜性によって異なることが、これまでの研究で指摘されているが（荻谷編 1995、岩内・荻谷・平沢編 1998）、地域要因の検討は限定されたものになっている。2005年の労働政策研究・研修機構の調査によれば、就職活動の開始時期や企業説明会の参加数や面接を受けた企業数、内定企業数は大学の所在地によって異なっている（労働政策研究・研修機構 2006、pp.73-74）。同調査の報告書（2006）には、また、就職活動の際の地域差の問題が学生の自由回答によって示されている。たとえば、Uターン就職のための情報が少ない、ネット上の情報が東京に偏っている、首都圏や主要都市でのみ説明会が行われている、就職活動での移動にかかる交通費や時間が都市部よりも地方で負担になる、などである（同報告書、p.99）。地域によって交通の便や労働市場が異なることは明らかであり、また、それぞれの地域には働くことについてのそれぞれの規範があると予想できる。このような労働市場や規範の相違は、学生の就職活動にも影響を与えているであろう。このため、大学生の就職活動を理解するには地域別の分析が不可欠である。地域の特徴を把握することに加え、さらに、学生の地域移動のパターンを抽出することは就職活動を支援する側にとっても重要である。大学のキャリア形成支援が大学周辺の労働市場のみを視野に入れているとすれば、Uターン就職などで大学所在地から離れて就職する学生にとって、その支援は不十分なものである可能性がある。そこで本章では、学生の地域移動パターンを抽出し、かれらに対しどのような支援が必要であるのかを考えるための基礎的資料を提示したい。

また、就職活動と性別に関するこれまでの先行研究を踏まえれば（吉原 1995、仙田 1995、本田 1998）、就職活動の性別による相違は地域を分析するにあたって重要な課題となってくる。地域に根ざした職業規範や労働市場は性別によって大きく異なると予想されるからである。

本章では、「大学生のキャリア展望と就職活動に関する実態調査」（調査1）をデータとして用い（調査の詳細は序章参照）、以上の課題を分析する。まず、職業に関する規範と労働市場、就職活動プロセスに関する地域の特徴を明らかにし（第2節）、つぎに学生の地域移動パターンを抽出して、その規定要因を分析する（第3節）。最後に、現在の大学のキャリア形成支援の課題について検討したい（第4節）。

2. 就職活動における地域の特徴

地域を分析するにあたり、本章では、全国の都道府県を距離、交通の便から考え、図表3-1のように11のエリアに分類した。関東の一部と近畿の一部の都府県は、他の都道府県と比べて距離も近く、交通の便も良いため、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県を「東京圏」、京都府、大阪府、兵庫県を「京阪神」とし、一つの県と捉えて分析することにした¹⁾。

図表3-1 エリア分類

エリア名	都道府県
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	茨城県、栃木県、群馬県、東京圏(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)
甲信越	新潟県、山梨県、長野県
北陸	富山県、石川県、福井県
中部	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京阪神(京都府、大阪府、兵庫県)、奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
沖縄	沖縄県

(1) 高校から大学への移動

最初に、高校から大学への進学で、学生がどのような移動をしているのかをエリアと性別ごとに確認したい。

分析にあたって、まず本調査データの偏りを見ておく。本調査の回答者の高校所在エリアと大学所在エリアを学校基本調査と比較したものがつぎの図表3-2である。学校基本調査は、2005年に4年生であった調査対象者の多くが入学したと思われる2002年次の調査結果を示してある。これを見ると、本調査では高校所在エリアも大学所在エリアも関東エリア所在の高校、大学に通う者が少ない。

図表3-2 高校所在エリア、大学所在エリア(学校基本調査2003との比較)

	高校所在エリア		大学所在エリア	
	本調査	学校基本調査	本調査	学校基本調査
北海道	5.4	3.5	6.2	3.3
東北	6.4	6.4	4.8	4.3
関東	22.3	33.2	26.2	43.5
甲信越	5.9	4.2	6.0	2.2
北陸	4.7	2.5	5.0	1.7
中部	12.8	12.2	9.3	9.2
近畿	15.9	17.6	17.1	20.1
中国	8.2	6.3	7.1	4.9
四国	3.7	3.3	2.9	1.8
九州	13.5	9.8	13.9	8.4
沖縄	1.3	1.0	1.6	0.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0
N	18133	586749	18509	604785

注) 学校基本調査は2003年のものを使用。

大学進学先が高校所在地と同じ都道府県であるか、隣県であるか、同じエリア内であるか、他のエリアであるかを高校エリア別に見たのが、つぎの図表 3-3、4 である。この分類では、他のエリアであっても隣に位置づいていれば「隣県」として定義した（北海道－青森県、京阪神－徳島県、岡山県－香川県、広島県－愛媛県、山口県－福岡県は隣県として定義し、沖縄県は隣県なしとした）。また、図表 3-1 に示したように、北海道と沖縄は定義上「同じエリア」が存在しないため空白とした。

図表 3-3 高校エリア別大学進学先

		北海道	東北	関東	甲信越	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
男性	同じ県	87.3	39.4	75.2	58.5	41.3	44.9	66.4	26.1	24.9	46.2	81.9
	隣県	0.0	26.4	12.2	15.1	26.4	28.1	17.2	29.9	22.3	17.8	—
	同じエリア	—	6.1	0.1	0.5	5.3	2.0	0.0	2.0	0.7	21.0	—
	他のエリア	12.7	28.1	12.5	25.9	26.9	25.0	16.3	42.0	52.0	15.0	18.1
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
N		511	622	1694	571	375	1226	1508	609	269	1076	116
女性	同じ県	87.3	34.5	81.3	45.1	33.9	43.5	66.5	46.4	23.5	52.8	67.5
	隣県	0.0	19.8	11.4	22.0	38.6	28.3	20.2	25.6	27.5	14.9	—
	同じエリア	—	2.4	0.3	0.4	1.3	1.5	0.1	5.5	1.0	17.1	—
	他のエリア	12.7	43.3	7.1	32.5	26.2	26.7	13.2	22.5	48.0	15.2	32.5
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
N		465	536	2343	486	469	1085	1374	868	404	1372	126

注) 北海道、沖縄は定義上「同じエリア」は存在しないため空白とした。

「隣県」は他のエリアであっても隣の県であれば「隣県」と定義した。北海道－青森県、京阪神－徳島県、岡山県－香川県、広島県－愛媛県、山口県－福岡県は隣県とした。

これを見ると、北海道、関東、沖縄（男性）で同じ都道府県に進学した者が 7 割を超えている。これと対照的に、東北（女性）、中国（男性）、四国では他のエリアに進学した者が 4 割以上おり比較的多い。図表 3-4 で具体的に移動したエリアを確認すると、東北（女性）で関東、中国（男性）で九州、近畿、四国、四国では近畿、中国（女性）、九州（男性）に進学した者が多い。また、九州では他のエリアとくらべて同じエリア内で進学した者が多くなっている。

図表3-4 高校エリア別の大学進学先エリア

高校エリア	大学エリア											N		
	北海道	東北	関東	甲信越	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄			
北海道	男性	87.3	1.8	5.5	1.2	1.2	0.6	0.6	0.4	0.2	0.8	0.6	100.0	511
	女性	87.3	1.5	5.2	1.5	1.1	0.4	2.2	0.0	0.0	0.4	0.4	100.0	465
東北	男性	9.2	68.8	14.0	4.2	1.3	0.6	0.8	0.5	0.0	0.0	0.6	100.0	622
	女性	8.2	49.8	28.2	7.6	2.2	0.7	0.9	0.7	0.0	0.6	0.9	100.0	536
関東	男性	1.8	3.3	86.2	4.1	1.2	0.5	1.1	0.2	0.2	0.8	0.4	100.0	1694
	女性	1.2	1.1	92.4	2.1	0.7	0.3	0.9	0.2	0.1	0.4	0.6	100.0	2343
甲信越	男性	1.6	3.0	20.1	63.9	4.2	3.5	3.0	0.2	0.0	0.4	0.2	100.0	571
	女性	1.4	1.4	31.7	50.8	4.3	6.2	2.5	0.2	0.2	1.0	0.2	100.0	486
北陸	男性	0.5	1.9	6.1	4.5	67.5	6.7	10.1	0.8	0.5	1.1	0.3	100.0	375
	女性	0.6	1.1	5.3	5.5	66.1	4.7	11.7	4.1	0.2	0.4	0.2	100.0	469
中部	男性	0.9	1.1	7.3	8.1	6.7	62.4	7.7	2.4	0.9	1.8	0.7	100.0	1226
	女性	1.1	0.5	12.4	4.7	3.8	63.2	9.7	2.7	0.4	0.7	0.9	100.0	1085
近畿	男性	1.5	0.6	1.9	2.2	3.7	2.4	79.1	4.2	2.0	2.0	0.5	100.0	1508
	女性	0.7	0.1	1.6	1.0	1.8	1.4	83.7	4.5	2.2	2.3	0.7	100.0	1374
中国	男性	1.6	0.5	4.9	1.1	1.0	2.0	15.4	38.6	13.0	20.4	1.5	100.0	609
	女性	1.2	0.3	3.9	0.8	0.7	0.7	11.6	62.9	8.8	8.6	0.5	100.0	868
四国	男性	1.1	0.7	6.7	0.7	1.5	3.7	20.8	8.9	39.4	16.0	0.4	100.0	269
	女性	1.0	0.2	6.2	1.0	0.7	1.5	19.8	24.0	38.6	6.7	0.2	100.0	404
九州	男性	0.8	0.3	2.3	0.9	1.0	1.0	2.0	3.8	1.0	84.9	1.9	100.0	1076
	女性	0.6	0.0	3.8	0.3	0.4	0.7	2.8	5.9	0.9	83.9	0.7	100.0	1372
沖縄	男性	0.9	0.0	3.4	0.0	0.0	1.7	0.9	0.0	0.0	11.2	81.9	100.0	116
	女性	0.8	0.0	4.0	0.0	0.0	1.6	2.4	7.1	0.0	16.7	67.5	100.0	126

注) 囲みは同じエリア内での進学。それ以外の太字は10%以上のもの。

(2) 職業と性別に関する地域の規範

① エリア別の居住形態

高校から大学に進学したあと、学生の居住形態はどのようなであろうか。居住形態は地域の、とくに性別に関する規範を示す一つの指標となる。たとえば、女性の一人暮らしは男性よりも心配されることが多く、また、就職の際に不利な条件となることもある。逆に、男性は家を継ぐ存在として実家にとどまるよう言われている可能性もある。このように、性別と職業に関する地域規範と居住形態は密接に関連しているだろう。

まず、進学移動パターンと居住形態の関係を見ると(図表3-5)、高校から大学への移動が同じ都道府県内であれば家族と同居している割合が多いが、エリアを離れるほど一人での生活が多くなっていることが分かる。

図表 3-5 進学移動パターンと居住形態

		同じ県	隣県	同じ エリア	他の エリア	
男性	家族と同居	79.2	30.3	3.7	4.4	p=.000
	一人で生活	19.1	66.6	90.8	90.8	
	その他	1.5	2.6	4.9	4.5	
	無回答	0.3	0.5	0.6	0.3	
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	
N		4825	1595	326	1831	
女性	家族と同居	85.3	39.4	5.4	6.0	p=.000
	一人で生活	12.8	56.0	87.3	85.7	
	その他	1.7	4.5	7.3	8.2	
	無回答	0.2	0.1	0.0	0.2	
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	
N		5567	1783	331	1847	

つぎに、エリアの特徴を抽出するため、高校から大学への進学が同じ都道府県内であった者にかぎってエリア別に居住形態を見た²⁾。図表 3-6 によると、関東と中部で家族と同居している割合が高く、北海道で低くなっている。これは、交通の便も影響していると考えられる。性別の相違を見ると、北陸、沖縄では男性のほうがやや家族と同居の割合が高く、それ以外のエリアでは女性のほうが多い。とくに東北、甲信越、中国では約 10 ポイント女性の方が家族と同居の割合が高くなっている。これらの地域では、ほかの地域とくらべ、性別規範が強い可能性がある。

図表 3-6 エリア別居住形態

		家族と同居	一人で生活	その他	無回答	合計	N
北海道	男性	51.1	43.3	4.9	0.7	100.0	446
	女性	58.6	36.0	4.9	0.5	100.0	406
東北	男性	74.7	23.7	1.2	0.4	100.0	245
	女性	84.3	13.0	2.7	0.0	100.0	185
関東	男性	89.5	8.7	1.5	0.3	100.0	1274
	女性	93.9	4.7	1.2	0.2	100.0	1904
甲信越	男性	59.6	38.3	2.1	0.0	100.0	334
	女性	70.3	26.9	2.7	0.0	100.0	219
北陸	男性	86.5	12.9	0.6	0.0	100.0	155
	女性	81.8	17.0	0.6	0.6	100.0	159
中部	男性	90.0	9.1	0.5	0.4	100.0	551
	女性	90.9	8.1	0.8	0.2	100.0	472
近畿	男性	79.2	19.9	0.7	0.2	100.0	1002
	女性	86.7	11.8	1.4	0.1	100.0	914
中国	男性	72.3	25.8	1.9	0.0	100.0	159
	女性	81.6	16.9	1.2	0.2	100.0	403
四国	男性	82.1	17.9	0.0	0.0	100.0	67
	女性	81.1	17.9	0.0	1.1	100.0	95
九州	男性	79.1	19.7	1.0	0.2	100.0	497
	女性	80.4	17.5	1.9	0.1	100.0	725
沖縄	男性	86.3	10.5	3.2	0.0	100.0	95
	女性	85.9	11.8	2.4	0.0	100.0	85

②大学生の職業意識

①では居住形態によってエリアの特徴を探る試みをした。ここでは、大学生の職業意識からエリアの特徴を探ることとする。ここでもまた、エリアの特徴を抽出するため、高校と同じ都道府県内で進学した者にかぎって分析する。つぎの図表3-7、8では、「大学を卒業するときには、何が何でも正社員として就職したい」かどうか、「仕事に就いたらうまくできる自信がある」かどうかをエリア別に示したものである。

「大学を卒業するときには、何が何でも正社員として就職したい」者は男女とも沖縄でかなり低くなっている。とくに女性では「よくあてはまる+まああてはまる」の割合が35.3%と突出して低い。性別の相違を見ると、「大学を卒業するときには、何が何でも正社員として就職したい」者は四国以外のエリアで「よくあてはまる+まああてはまる」の割合が男性のほうが高い。とくに沖縄では約30ポイント以上の差が見られる。また、北海道、関東、北陸、九州でも約9ポイントの差がある。これは労働市場の影響を反映したものと推測できる。対照的に四国では、女性のほうが10ポイント近く多くなっている。

図表3-7 「大学を卒業するときには、何が何でも正社員として就職したい」

		よくあて はまる	まああ てはま る	あまりあ てはま らない	まったく あては まらない	無回答	合計	N
男性	北海道	60.3	24.0	11.0	4.7	0.0	100.0	446
	東北	62.4	26.5	9.0	2.0	0.0	100.0	245
	関東	57.5	27.6	10.4	4.5	0.0	100.0	1274
	甲信越	65.9	24.3	7.8	2.1	0.0	100.0	334
	北陸	59.4	28.4	10.3	1.3	0.6	100.0	155
	中部	60.6	25.6	9.6	3.3	0.9	100.0	551
	近畿	57.9	26.6	10.7	4.8	0.0	100.0	1002
	中国	59.1	25.8	11.3	3.8	0.0	100.0	159
	四国	64.2	20.9	10.4	4.5	0.0	100.0	67
	九州	56.5	27.8	11.7	3.8	0.2	100.0	497
	沖縄	40.0	26.3	21.1	12.6	0.0	100.0	95
女性	北海道	39.9	35.2	19.2	5.7	0.0	100.0	406
	東北	54.1	29.2	15.1	1.6	0.0	100.0	185
	関東	44.0	32.2	17.8	5.7	0.3	100.0	1904
	甲信越	43.4	39.3	14.2	3.2	0.0	100.0	219
	北陸	50.9	27.7	15.1	5.0	1.3	100.0	159
	中部	48.7	36.0	11.4	3.8	0.0	100.0	472
	近畿	49.5	30.6	15.5	4.2	0.2	100.0	914
	中国	48.4	32.0	16.6	2.2	0.7	100.0	403
	四国	52.6	42.1	5.3	0.0	0.0	100.0	95
	九州	42.1	33.4	19.9	4.6	0.1	100.0	725
	沖縄	14.1	21.2	44.7	20.0	0.0	100.0	85

「仕事に就いたらうまくできる自信がある」者は男性では関東、近畿、四国で「よくあてはまる+まああてはまる」の割合が7割を超える。女性では北海道、関東、近畿で5.5割を超える程度である。いずれのエリアにおいても、「仕事に就いたらうまくできる自信がある」者は女性よりも男性が多い。その差は、中国でのみ2.5ポイントであるが、他のエリアでは10ポイントから20ポイントの差がある。とくに四国で差が大きい。先に見たように、四国

では女性のほうが男性よりも「正社員として就職したい」という割合が 10 ポイント近く高いが、「仕事に就いたらうまくできる自信がある」と回答した者は男性よりもかなり低くなっていた。

図表 3-8 「仕事に就いたらうまくできる自信がある」

		よくあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	合計	N	
男性	北海道	16.8	52.2	26.5	4.3	0.2	100.0	446	p=.003
	東北	20.4	47.8	27.8	4.1	0.0	100.0	245	
	関東	19.0	51.2	25.9	3.5	0.5	100.0	1274	
	甲信越	11.7	47.6	33.5	6.9	0.3	100.0	334	
	北陸	16.1	41.9	36.1	5.2	0.6	100.0	155	
	中部	15.2	50.3	29.2	4.4	0.9	100.0	551	
	近畿	18.4	52.9	25.6	2.8	0.3	100.0	1002	
	中国	13.2	42.1	40.9	3.8	0.0	100.0	159	
	四国	11.9	59.7	28.4	0.0	0.0	100.0	67	
	九州	18.1	48.3	29.4	4.0	0.2	100.0	497	
沖縄	21.1	46.3	29.5	3.2	0.0	100.0	95		
女性	北海道	8.9	46.3	39.9	4.4	0.5	100.0	406	p=.001
	東北	9.7	41.6	42.7	5.9	0.0	100.0	185	
	関東	7.9	48.4	38.0	5.1	0.6	100.0	1904	
	甲信越	10.0	34.7	46.6	8.7	0.0	100.0	219	
	北陸	3.1	41.5	48.4	6.3	0.6	100.0	159	
	中部	7.2	39.4	48.1	5.1	0.2	100.0	472	
	近畿	10.7	48.2	36.3	4.5	0.2	100.0	914	
	中国	6.9	45.9	41.2	5.7	0.2	100.0	403	
	四国	1.1	50.5	45.3	3.2	0.0	100.0	95	
	九州	8.6	46.6	40.6	4.0	0.3	100.0	725	
沖縄	4.7	45.9	42.4	7.1	0.0	100.0	85		

参考 1 大学エリア別職業意識（注：高校、大学が同じ都道府県である者に限らない）

「大学を卒業するときには、何が何でも正社員として就職したい」

「仕事に就いたらうまくできる自信がある」

	大学エリア	よくあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	合計	N	
男性	北海道	58.6	24.3	11.5	5.1	0.5	100.0	609	p=.000
	東北	58.7	27.6	9.9	3.4	0.4	100.0	554	
	関東	57.3	26.8	10.8	4.6	0.6	100.0	1955	
	甲信越	62.9	25.1	8.6	2.6	0.8	100.0	653	
	北陸	57.6	28.5	10.3	3.2	0.4	100.0	474	
	中部	58.8	26.1	10.6	3.7	0.8	100.0	904	
	近畿	56.7	26.2	11.6	5.2	0.3	100.0	1555	
	中国	58.6	28.2	8.8	4.2	0.2	100.0	408	
	四国	54.0	28.6	12.1	4.4	0.8	100.0	248	
	九州	55.2	28.2	11.8	4.1	0.7	100.0	1199	
沖縄	33.8	28.0	23.6	14.0	0.6	100.0	157		
女性	北海道	39.3	34.6	20.4	5.6	0.0	100.0	534	p=.000
	東北	50.9	34.1	12.8	1.8	0.3	100.0	328	
	関東	43.6	31.9	17.7	6.3	0.4	100.0	2889	
	甲信越	42.2	37.3	15.9	4.1	0.4	100.0	464	
	北陸	46.9	30.0	16.4	5.8	0.9	100.0	450	
	中部	49.3	34.5	12.2	3.7	0.4	100.0	804	
	近畿	47.3	31.1	16.4	4.5	0.7	100.0	1599	
	中国	42.7	36.3	17.6	2.9	0.4	100.0	897	
	四国	43.6	40.8	14.2	1.4	0.0	100.0	282	
	九州	41.9	33.5	18.8	5.4	0.4	100.0	1371	
沖縄	15.4	23.1	38.5	23.1	0.0	100.0	143		

	大学エリア	よくあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	合計	N	
男性	北海道	17.2	50.9	26.8	4.4	0.7	100.0	609	p=.000
	東北	15.5	50.2	29.2	4.7	0.4	100.0	554	
	関東	20.5	49.6	25.5	3.6	0.9	100.0	1955	
	甲信越	12.4	48.5	31.5	6.6	0.9	100.0	653	
	北陸	14.6	43.2	35.9	5.5	0.8	100.0	474	
	中部	16.9	48.2	30.3	3.8	0.8	100.0	904	
	近畿	19.1	52.0	25.5	3.0	0.4	100.0	1555	
	中国	14.0	48.0	34.1	3.9	0.0	100.0	408	
	四国	14.5	49.2	33.1	2.8	0.4	100.0	248	
	九州	17.2	47.2	31.4	3.3	0.8	100.0	1199	
沖縄	19.1	45.9	29.3	5.7	0.0	100.0	157		
女性	北海道	8.6	45.7	40.4	4.9	0.4	100.0	534	p=.000
	東北	7.0	47.0	41.2	4.9	0.0	100.0	328	
	関東	8.9	47.8	37.5	5.1	0.7	100.0	2889	
	甲信越	7.3	40.7	44.2	7.3	0.4	100.0	464	
	北陸	4.4	39.6	47.1	8.0	0.9	100.0	450	
	中部	7.2	37.7	47.9	6.7	0.5	100.0	804	
	近畿	9.9	48.1	37.0	4.3	0.6	100.0	1599	
	中国	6.9	44.8	43.0	4.5	0.8	100.0	897	
	四国	2.8	53.2	39.7	4.3	0.0	100.0	282	
	九州	9.2	44.9	41.4	4.1	0.5	100.0	1371	
沖縄	7.0	42.0	44.1	6.3	0.7	100.0	143		

参考2 高校エリア別職業意識（注：高校、大学が同じ都道府県である者に限らない）

「大学を卒業するときには、何が何でも
正社員として就職したい」

「仕事に就いたらうまくできる自信がある」

高校 エリア	よくあ てはま る	まああ てはま る	あまりあ てはま らない	まったく あては まらない	無回答	合計	N
男性 北海道	60.1	23.9	11.0	5.1	0.0	100.0	511
東北	60.1	26.4	9.2	3.9	0.5	100.0	622
関東	57.4	26.9	10.9	4.7	0.1	100.0	1694
甲信越	61.5	26.4	8.9	3.2	0.0	100.0	571
北陸	60.3	28.5	8.5	2.4	0.3	100.0	375
中部	58.0	26.2	10.8	4.4	0.7	100.0	1226
近畿	57.2	26.4	11.5	4.9	0.1	100.0	1508
中国	57.5	25.6	12.2	4.6	0.2	100.0	609
四国	53.9	32.3	10.8	3.0	0.0	100.0	269
九州	54.8	28.3	12.5	3.9	0.4	100.0	1076
沖縄	40.5	28.4	19.8	11.2	0.0	100.0	116
女性 北海道	39.4	34.8	19.1	6.7	0.0	100.0	465
東北	48.5	30.8	16.8	3.7	0.2	100.0	536
関東	44.1	31.8	17.8	6.1	0.3	100.0	2343
甲信越	42.6	38.5	14.6	4.1	0.2	100.0	486
北陸	48.8	33.0	14.1	3.6	0.4	100.0	469
中部	46.7	33.3	15.1	4.6	0.3	100.0	1085
近畿	48.3	30.6	16.4	4.5	0.1	100.0	1374
中国	43.9	36.3	16.4	3.1	0.3	100.0	868
四国	44.6	37.1	15.3	3.0	0.0	100.0	404
九州	40.7	33.9	19.8	5.6	0.1	100.0	1372
沖縄	18.3	29.4	34.9	16.7	0.8	100.0	126

高校 エリア	よくあ てはま る	まああ てはま る	あまりあ てはま らない	まったく あては まらない	無回答	合計	N
男性 北海道	17.0	51.9	27.0	3.9	0.2	100.0	511
東北	18.3	49.0	27.3	5.1	0.2	100.0	622
関東	18.2	50.2	27.3	3.7	0.5	100.0	1694
甲信越	14.9	46.6	31.9	6.5	0.2	100.0	571
北陸	14.9	44.5	36.0	4.0	0.5	100.0	375
中部	16.0	50.7	29.2	3.6	0.6	100.0	1226
近畿	18.1	52.4	26.0	3.3	0.2	100.0	1508
中国	16.6	44.3	34.8	4.3	0.0	100.0	609
四国	15.6	51.7	30.1	2.6	0.0	100.0	269
九州	17.9	48.2	29.9	3.6	0.3	100.0	1076
沖縄	24.1	41.4	31.9	2.6	0.0	100.0	116
女性 北海道	9.0	46.2	39.8	4.5	0.4	100.0	465
東北	7.8	43.1	43.3	5.8	0.0	100.0	536
関東	7.8	48.6	37.7	5.3	0.6	100.0	2343
甲信越	7.6	38.5	46.5	7.2	0.2	100.0	486
北陸	4.3	40.1	47.8	7.5	0.4	100.0	469
中部	7.4	41.6	44.9	5.9	0.3	100.0	1085
近畿	10.4	47.5	37.6	4.3	0.2	100.0	1374
中国	5.5	46.4	41.7	6.0	0.3	100.0	868
四国	4.7	43.1	49.3	3.0	0.0	100.0	404
九州	8.3	47.5	40.3	3.7	0.1	100.0	1372
沖縄	4.8	46.0	42.9	6.3	0.0	100.0	126

③保護者の関わり方

これまで居住形態、大学生の職業意識を見てきたが、保護者の関わり方もまた、職業や性別についての地域の規範を測る指標の一つとなる。保護者の関わり方はエリアで異なっているだろうか。エリア別の職業意識を比較するため、ここでも上と同様に、高校と同じ都道府県内で進学した者に限定して分析する。つぎの図表3-9、10は「私の親や保護者は、進路や就職先について具体的に意見や希望を言うことがよくある」かどうか、「就職活動にかかるお金（リクルートスーツ代、交通費など）を保護者に援助してもらった」かどうかをエリア別に示したものである。

図表3-9を見ると、保護者が具体的に意見を言うと回答したのは、関東、近畿で比較的少なく、男性で四国、女性で甲信越、中国、沖縄で「よくあてはまる+まああてはまる」の割合が5割を超え、比較的多くなっている。また、四国以外でのエリアで保護者が具体的に意見を言うと回答した者は男性よりも女性で多く、とくに北陸で約9.7ポイント、甲信越で8.6ポイントの差が見られた。四国では、男性のほうが多く、女性よりも5.8ポイント多い結果となった。先に見たように、甲信越では女性が多く家族と同居しているため保護者が具体的に意見を述べるのだと解釈できるが、北陸、四国では男性の方が多く家族と同居しているため、家族と同居の割合と保護者の意見の有無は安易に結びつけることはできない。

図表 3-9 「私の親や保護者は、進路や就職先について
具体的に意見や希望を言うことがよくある」

		よくあて はまる	まああ てはま る	あまりあ てはま らない	まったく あては まらない	無回答	合計	N
男性	北海道	12.8	27.4	36.5	23.1	0.2	100.0	446
	東北	16.3	27.3	37.6	18.0	0.8	100.0	245
	関東	10.0	26.5	37.3	26.2	0.1	100.0	1274
	甲信越	12.3	29.3	41.6	16.8	0.0	100.0	334
	北陸	11.6	28.4	35.5	23.2	1.3	100.0	155
	中部	15.1	26.7	36.7	20.9	0.7	100.0	551
	近畿	8.9	25.8	37.4	27.4	0.4	100.0	1002
	中国	14.5	32.7	29.6	23.3	0.0	100.0	159
	四国	16.4	38.8	31.3	13.4	0.0	100.0	67
	九州	14.9	31.4	36.8	16.7	0.2	100.0	497
	沖縄	16.8	32.6	31.6	18.9	0.0	100.0	95
女性	北海道	13.3	30.0	39.4	17.2	0.0	100.0	406
	東北	18.9	27.6	36.8	16.8	0.0	100.0	185
	関東	12.1	27.0	39.4	21.1	0.4	100.0	1904
	甲信越	18.7	31.5	36.1	13.7	0.0	100.0	219
	北陸	21.4	28.3	30.8	18.9	0.6	100.0	159
	中部	15.9	30.7	35.2	18.0	0.2	100.0	472
	近畿	13.7	27.6	39.1	19.3	0.4	100.0	914
	中国	15.4	34.7	31.3	18.4	0.2	100.0	403
	四国	15.8	33.7	44.2	6.3	0.0	100.0	95
	九州	15.0	33.7	35.4	15.7	0.1	100.0	725
	沖縄	14.1	38.8	25.9	21.2	0.0	100.0	85

つぎに、「就職活動にかかるお金（リクルートスーツ代、交通費など）を保護者に援助してもらった」かどうかを見ると（図表 3-10）、沖縄の女性を除いて、6割前後の者が「よくあてはまる+まああてはまる」と回答している。男女差を見ると、男性のほうが沖縄で 12.7 ポイント、東北 8.7 ポイント多く、反対に、甲信越では女性のほうが 7.1 ポイント多かった。

甲信越では女性のほうが家族との同居の割合が高く、沖縄では男性のほうがやや家族と同居の割合が高いため、このような結果が出たのかもしれない。ただし、東北では女性のほうが 10 ポイント以上、家族と同居の割合が高いが、保護者に援助してもらったと回答した割合は男性よりも低いことに留意する必要がある。

図表3-10 「就職活動にかかるお金（リクルートスーツ代、交通費など）を保護者に援助してもらった」

		よくあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	合計	N
男性	北海道	39.7	20.1	14.6	21.2	4.5	100.0	378
	東北	40.6	26.2	12.2	18.8	2.2	100.0	229
	関東	43.7	22.8	12.4	18.7	2.4	100.0	1150
	甲信越	40.9	20.8	14.2	22.8	1.3	100.0	303
	北陸	29.2	27.7	13.1	27.7	2.2	100.0	137
	中部	35.4	24.7	13.6	24.3	1.9	100.0	514
	近畿	38.0	26.6	11.4	21.5	2.4	100.0	831
	中国	34.1	26.8	18.1	21.0	0.0	100.0	138
	四国	35.6	23.7	11.9	23.7	5.1	100.0	59
	九州	35.5	23.4	14.1	25.7	1.3	100.0	397
	沖縄	39.4	19.7	12.1	24.2	4.5	100.0	66
女性	北海道	32.7	22.7	12.9	26.9	4.9	100.0	309
	東北	35.5	22.7	15.1	20.9	5.8	100.0	172
	関東	46.9	23.0	11.8	16.0	2.4	100.0	1728
	甲信越	43.2	25.6	8.0	21.6	1.5	100.0	199
	北陸	39.2	16.8	16.0	21.6	6.4	100.0	125
	中部	38.1	22.9	11.3	25.4	2.3	100.0	433
	近畿	43.4	24.4	10.9	19.3	1.9	100.0	824
	中国	35.6	20.5	14.6	26.4	3.0	100.0	371
	四国	34.1	22.0	12.1	28.6	3.3	100.0	91
	九州	35.6	21.9	12.1	27.1	3.2	100.0	634
	沖縄	26.8	19.5	17.1	34.1	2.4	100.0	41

参考3 大学エリア別保護者の関わり（注：高校、大学が同じ都道府県である者に限らない）

「私の親や保護者は、進路や就職先について具体的に意見や希望を言うことがよくある」

「就職活動にかかるお金（リクルートスーツ代、交通費など）を保護者に援助してもらった」

	大学エリア	よくあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	合計	N
男性	北海道	13.6	27.8	36.1	21.8	0.7	100.0	609
	東北	14.8	26.5	36.5	21.5	0.7	100.0	554
	関東	9.8	26.6	37.1	25.8	0.7	100.0	1955
	甲信越	12.6	28.3	39.5	19.0	0.6	100.0	653
	北陸	13.1	26.4	35.9	23.6	1.1	100.0	474
	中部	13.9	27.1	36.8	21.6	0.6	100.0	904
	近畿	9.9	26.1	37.5	26.0	0.5	100.0	1555
	中国	14.7	30.4	33.6	21.3	0.0	100.0	408
	四国	14.1	28.2	32.7	24.6	0.4	100.0	248
	九州	13.8	29.0	36.4	19.8	0.9	100.0	1199
	沖縄	14.0	27.4	34.4	24.2	0.0	100.0	157
女性	北海道	13.9	29.8	38.0	18.4	0.0	100.0	534
	東北	17.7	30.8	35.4	16.2	0.0	100.0	328
	関東	12.8	28.2	38.4	19.9	0.6	100.0	2889
	甲信越	15.3	30.8	38.1	15.5	0.2	100.0	464
	北陸	18.7	30.7	31.6	18.4	0.7	100.0	450
	中部	15.0	30.6	36.6	17.4	0.4	100.0	804
	近畿	12.9	28.7	38.5	19.1	0.8	100.0	1599
	中国	15.7	31.8	35.0	16.6	0.9	100.0	897
	四国	16.3	30.9	37.9	14.5	0.4	100.0	282
	九州	15.5	31.7	36.3	16.1	0.4	100.0	1371
	沖縄	14.7	35.7	32.2	17.5	0.0	100.0	143

	大学エリア	よくあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	合計	N
男性	北海道	42.9	18.3	13.5	19.7	5.6	100.0	518
	東北	41.5	25.3	12.6	18.6	1.9	100.0	467
	関東	42.7	22.7	12.6	19.5	2.4	100.0	1757
	甲信越	43.2	20.3	13.9	21.0	1.6	100.0	548
	北陸	34.9	23.5	14.0	25.6	2.1	100.0	387
	中部	37.5	26.1	12.4	22.2	1.8	100.0	824
	近畿	39.1	25.9	11.8	21.0	2.2	100.0	1293
	中国	39.2	23.4	12.7	23.7	1.1	100.0	355
	四国	29.9	26.1	13.7	25.1	5.2	100.0	211
	九州	37.8	22.8	13.3	23.5	2.6	100.0	973
	沖縄	38.3	22.4	12.1	22.4	4.7	100.0	107
女性	北海道	36.4	21.5	12.1	25.2	4.7	100.0	404
	東北	38.7	22.9	13.3	19.0	6.1	100.0	279
	関東	45.0	23.2	12.3	16.8	2.6	100.0	2543
	甲信越	41.6	24.6	10.3	21.8	1.8	100.0	399
	北陸	37.4	19.1	14.7	24.1	4.7	100.0	361
	中部	37.6	23.6	12.1	23.2	3.5	100.0	719
	近畿	46.4	22.2	10.4	18.7	2.4	100.0	1426
	中国	38.4	20.2	13.5	25.0	2.8	100.0	820
	四国	38.5	24.6	11.2	23.5	2.3	100.0	260
	九州	41.2	22.4	11.5	21.9	3.0	100.0	1179
	沖縄	33.8	18.9	13.5	25.7	8.1	100.0	74

参考4 高校エリア別保護者の関わり（注：高校、大学が同じ都道府県である者に限らない）

「私の親や保護者は、進路や就職先について具体的に意見や希望を言うことがよくある」

「就職活動にかかるお金（リクルートスーツ代、交通費など）を保護者に援助してもらった」

高校 エリア	よくあて はまる	まああ てはま る	あまりあ てはま らない	まったく あては まらない	無回答	合計	N
男性	12.1	27.4	37.4	22.9	0.2	100.0	511
東北	14.8	26.8	36.2	21.7	0.5	100.0	622
関東	10.4	27.0	37.3	24.9	0.4	100.0	1694
甲信越	12.4	29.4	38.7	19.3	0.2	100.0	571
北陸	13.3	28.3	35.5	22.4	0.5	100.0	375
中部	12.3	26.8	38.2	22.3	0.4	100.0	1226
近畿	9.4	26.1	37.4	26.9	0.3	100.0	1508
中国	15.3	26.9	35.0	22.8	0.0	100.0	609
四国	13.0	36.4	30.9	19.7	0.0	100.0	269
九州	14.5	26.7	36.6	21.8	0.4	100.0	1076
沖縄	16.4	34.5	31.9	17.2	0.0	100.0	116
女性	13.3	30.8	38.7	17.2	0.0	100.0	465
東北	16.0	31.3	35.6	17.0	0.0	100.0	536
関東	12.0	27.4	39.4	20.8	0.3	100.0	2343
甲信越	16.9	33.1	33.1	16.9	0.0	100.0	486
北陸	20.3	32.2	32.8	14.5	0.2	100.0	469
中部	14.8	30.9	36.5	17.4	0.4	100.0	1085
近畿	13.0	28.3	38.6	19.7	0.4	100.0	1374
中国	14.1	32.4	36.5	16.8	0.2	100.0	868
四国	14.9	30.7	37.4	17.1	0.0	100.0	404
九州	15.2	30.7	37.2	16.6	0.2	100.0	1372
沖縄	18.3	32.5	28.6	20.6	0.0	100.0	126

高校 エリア	よくあて はまる	まああ てはま る	あまりあ てはま らない	まったく あては まらない	無回答	合計	N
男性	41.0	18.7	13.8	22.5	4.0	100.0	427
北海道	41.3	23.0	13.6	20.4	1.8	100.0	560
東北	44.6	22.5	12.9	17.4	2.6	100.0	1494
関東	40.4	23.7	12.7	21.4	1.8	100.0	510
甲信越	37.5	23.2	13.7	24.1	1.5	100.0	328
北陸	37.0	25.5	12.6	23.0	2.0	100.0	1067
中部	39.4	25.8	12.0	20.4	2.3	100.0	1238
近畿	38.7	24.4	13.2	22.3	1.3	100.0	537
中国	38.6	22.9	10.6	23.3	4.7	100.0	236
四国	37.1	22.8	12.6	24.9	2.5	100.0	863
九州	39.5	22.2	11.1	23.5	3.7	100.0	81
沖縄	32.2	24.4	12.6	26.1	4.8	100.0	357
女性	41.4	22.2	11.9	20.3	4.2	100.0	454
北海道	46.5	23.5	11.4	16.2	2.4	100.0	2081
東北	42.3	23.7	10.5	20.7	2.8	100.0	430
関東	38.7	21.1	16.4	19.4	4.5	100.0	403
甲信越	42.1	21.8	12.3	21.2	2.6	100.0	954
北陸	44.2	24.0	10.5	19.1	2.2	100.0	1223
中部	41.0	19.4	12.3	24.0	3.2	100.0	787
近畿	37.7	24.3	13.6	20.9	3.5	100.0	374
中国	40.8	21.7	12.0	22.8	2.7	100.0	1189
四国	40.5	17.6	14.9	24.3	2.7	100.0	74
九州							
沖縄							

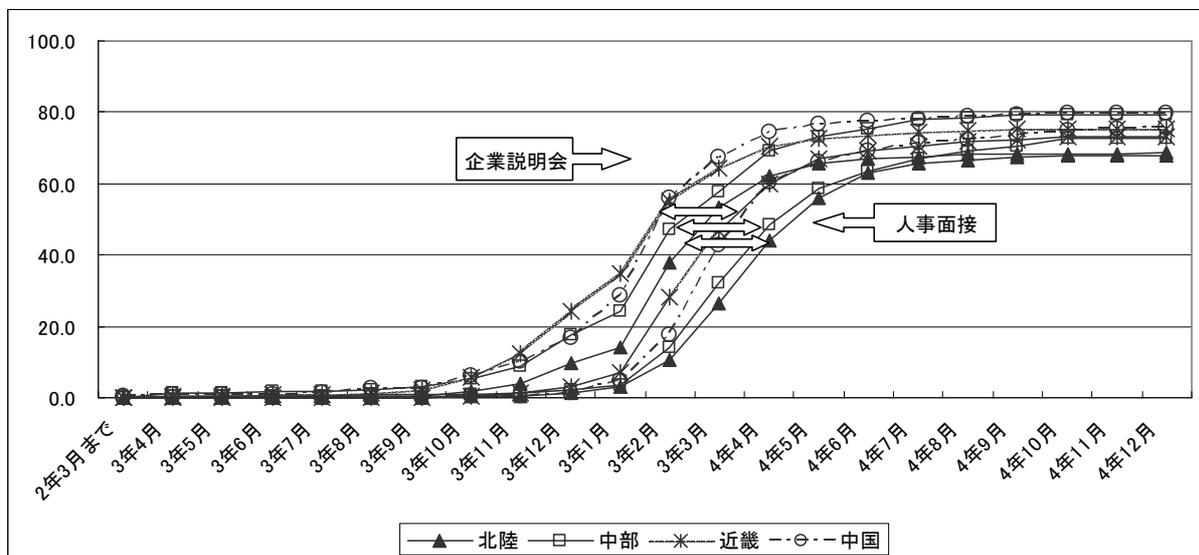
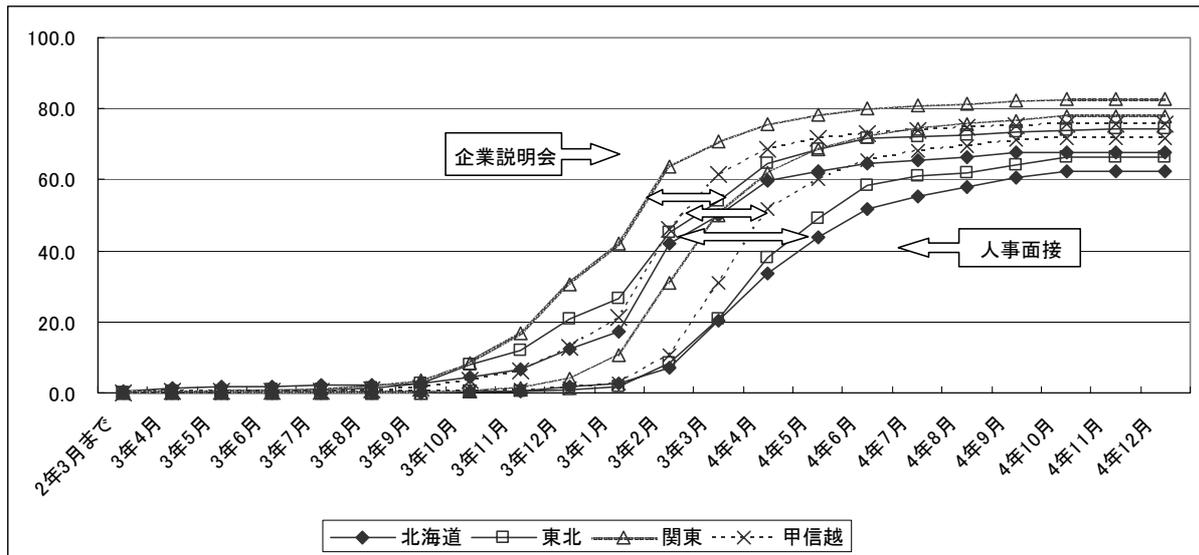
(3) エリア別の就職活動プロセス

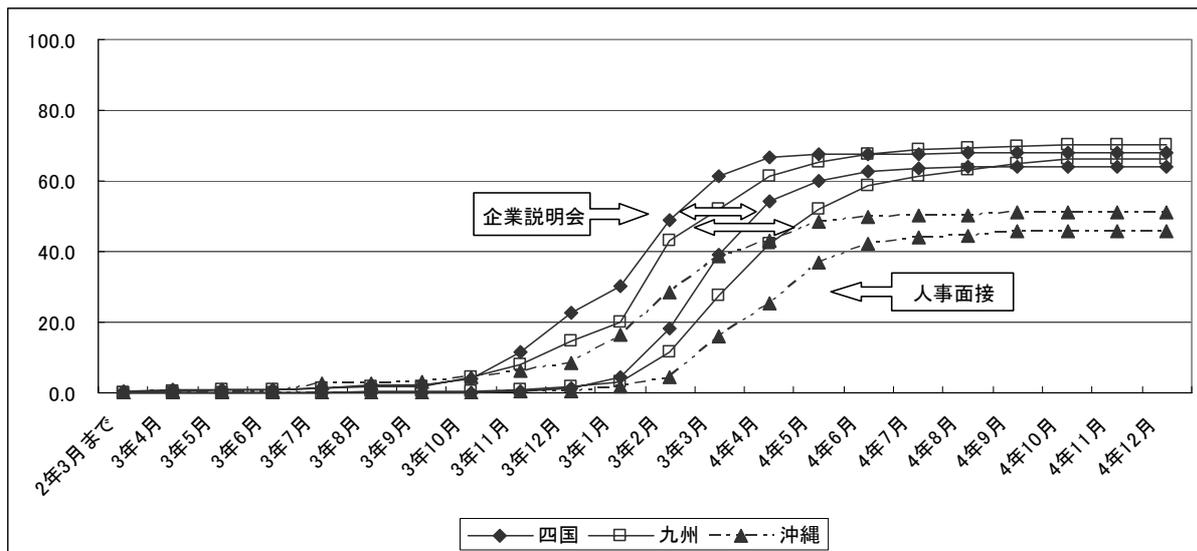
以上で見てきたような地域の職業と性別に関する規範をふまえ、学生が実際にどのような就職活動をしているのか、そのプロセスをエリア別に見たい。図表3-11、12は「企業説明会やセミナーなどに参加した」開始時期と「企業で人事面接を受けた」開始時期をエリア別に示したものである。これを見ると、男性ではいずれのプロセスも関東、近畿、中国がもっとも早く、企業説明会への出席は3年生の2月、人事面接を受けたのは4年生の4月で5割を超えている。北海道、東北、甲信越、北陸、中部、四国、九州は3年生の3月に企業説明会への出席が5割を超え、沖縄のみ4年生の7月と大幅に遅くなっている。人事面接の時期は甲信越、四国で関東、近畿、中国と同じく4年生の4月に5割を超えるのに対し、北陸、中部、九州で4年生の5月、北海道、東北では4年生の6月となっている。

女性では、男性と少し異なった様相を見せる。関東、近畿、四国、九州で企業説明会への出席が3年生の2月に5割を超え、関東、近畿では男性と同じ時期であるが、四国、九州では、男性よりも早い時期となっている。人事面接は関東、四国では4年生の4月、近畿では3年生の3月、九州では4年生の5月に5割を超える。関東ではいずれのプロセスも男性と同じであり、近畿では人事面接が男性よりも早い傾向にある。また、四国、九州は企業説明会の参加が男性よりも早い、人事面接は男性と同じ時期であった。東北、甲信越、北陸、中部、中国では3年生の3月に企業説明会への出席が5割を超え、東北、甲信越、北陸、中部では男性と同じ傾向、中国では男性よりも遅い傾向にある。東北、甲信越、北陸では、人事面接は4年生の5月に5割を超え、これは甲信越では男性（4年生4月）よりも遅く、北陸では男性と同じ、東北では男性（4年生6月）よりも早い傾向にある。中部、中国では人

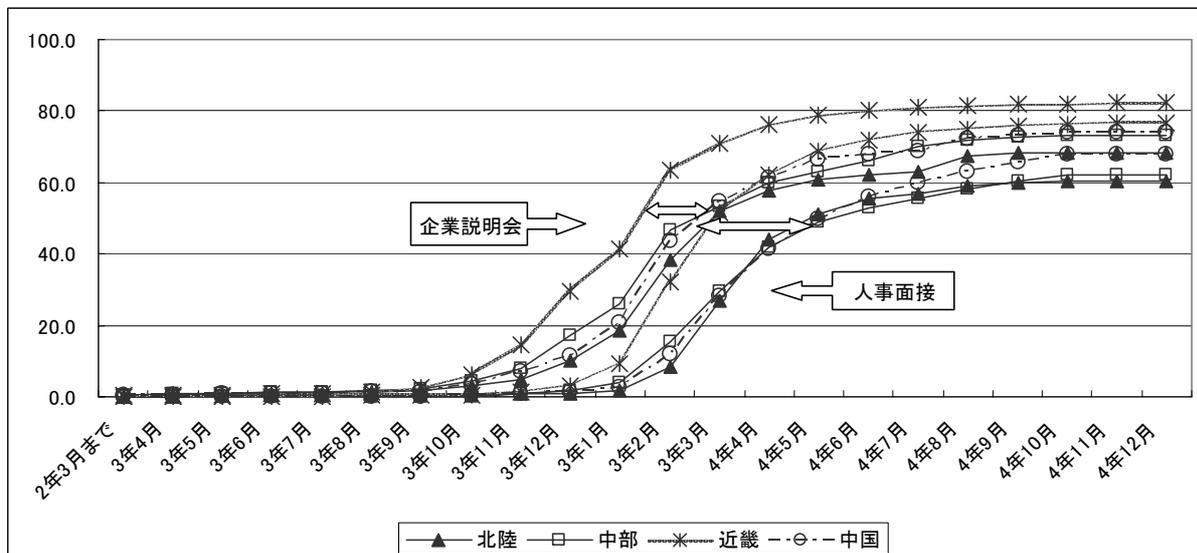
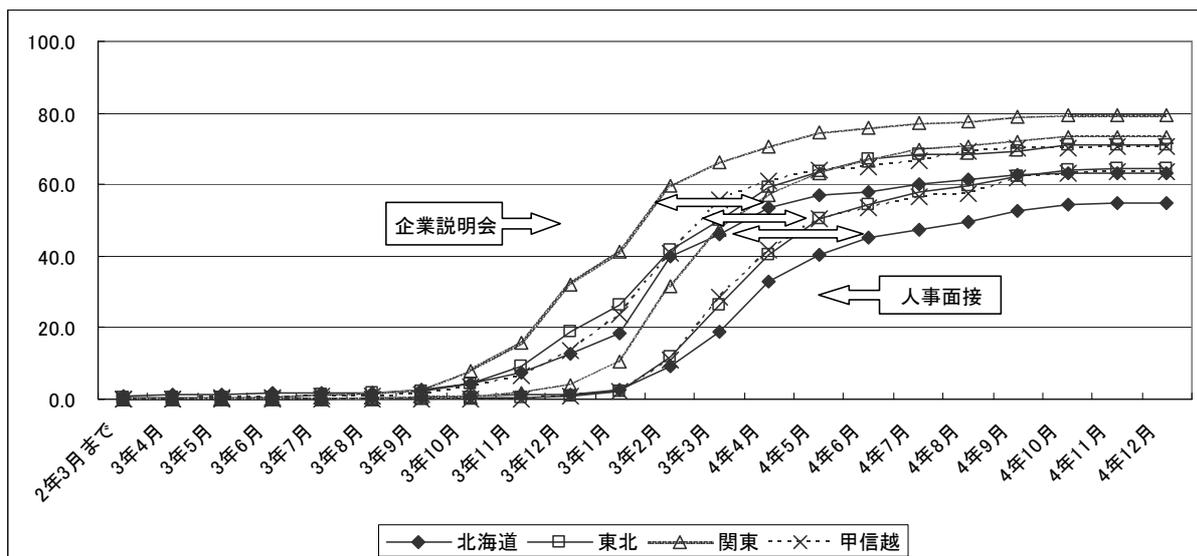
事面接は4年生の6月に5割を超え、両エリアとも男性よりも遅くなっている。北海道では企業説明会は4年生の4月に5割を超え、男性よりも遅い。さらに、人事面接が5割を超えるのは4年生の9月とほかと比較して遅い。沖縄は特異な状況となっており、4年生の12月時点でも、企業説明会への出席と人事面接を受けた者の割合が5割を超えていない。

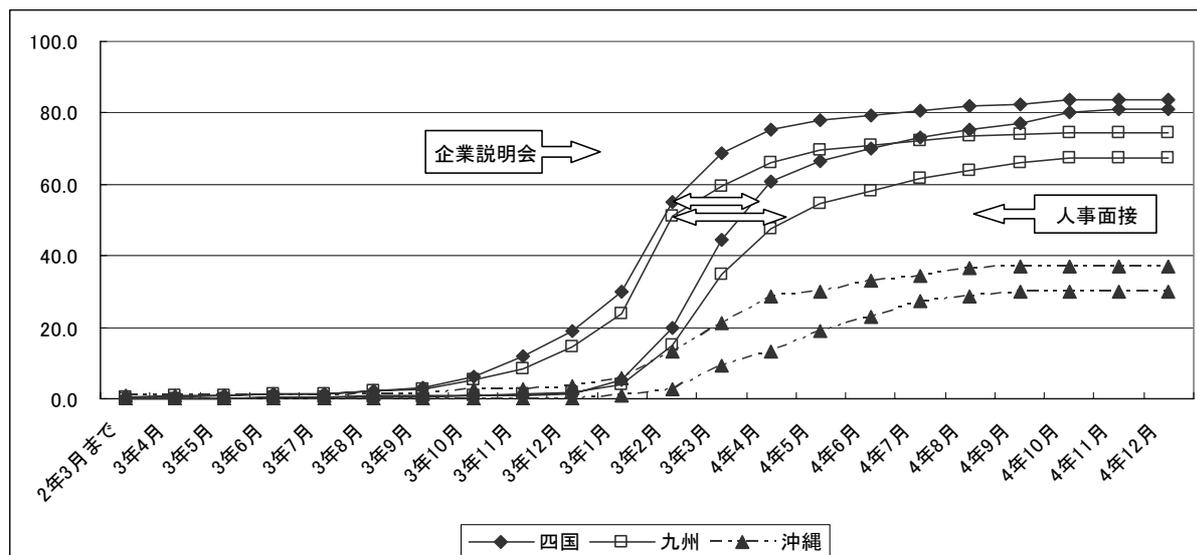
図表3-11 企業説明会への参加と人事面接の時期（累積率）（男性）





図表 3-12 企業説明会への参加と人事面接の時期（累積率）（女性）





(4) エリア別の進路と労働市場

以上のような就職活動のプロセスを経て、学生は調査時点でどのような進路にすすむ予定であろうか。エリアごとの進路を確認すると、男性では「正社員内定」および「公務教員内定」の割合は沖縄以外のエリアで5割程度である。沖縄では25.5%と内定率が割合が低くなっており、そのほか、北海道(51.0%)、北陸(53.5%)、中部(54.8%)、九州(49.2%)で比較的、内定率が低くなっている。ただし、北海道、中部、九州では「内定なし・就活中」が1割以上いることから、本調査後に正社員に内定している可能性がある。

女性では「正社員内定」および「公務教員内定」の割合が5割を超えるのは、関東(50.8%)、甲信越(59.9%)、中部(52.6%)、近畿(53.7%)、四国(74.6%)のみである。とりわけ北海道(35.2%)と沖縄(18.2%)で少ない。しかしながら、四国以外のエリアで「内定なし・就活中」が1割以上おり、とくに北海道、東北、中部、中国では2割を超える。上述の図表3-11、12を鑑みても、女性は男性よりも内定が出るのが遅いと予想でき、本調査後に正社員に内定している可能性がある。北海道では「無活動・公務教員希望」が14.7%と多いが、これは調査協力大学に教育学系の大学・学部が多く含まれているためだと考えられる。沖縄では15.4%の女性が「無活動・就職希望」であり、就職を希望しながらもほかのエリアとは異なる就職プロセスを歩んでいると解釈できる。

図表 3-13 大学所在エリア別進路

		北海道	東北	関東	甲信越	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
男性	正社員内定	47.3	55.0	58.9	59.3	51.8	51.8	53.3	60.1	51.7	47.0	24.2
	公務教員内定	3.7	2.8	2.1	3.9	1.7	3.0	2.5	4.3	9.6	2.2	1.3
	契約派遣・非常勤	3.7	2.4	2.5	0.9	1.7	3.0	1.5	2.1	2.1	2.5	2.5
	他内定有	2.0	2.0	2.0	1.2	2.3	1.5	1.8	1.6	2.1	2.1	3.8
	内定なし・就活中	15.3	12.7	10.9	7.7	7.0	19.0	10.7	7.5	6.3	13.1	7.0
	無活動・大学院希望	6.7	15.9	8.7	18.2	21.7	6.0	13.4	16.4	10.0	18.3	24.8
	留学・専門学等希望	2.6	1.6	1.8	0.6	0.8	2.2	2.8	1.3	4.2	1.9	1.3
	無活動・公務教員希望	6.8	1.0	1.4	1.7	2.0	2.3	2.3	1.3	2.9	3.5	9.6
	無活動・就職希望	3.7	1.8	3.9	1.9	2.0	5.1	2.9	1.1	1.3	3.1	9.6
	資格試験準備	0.7	0.2	0.6	0.2	0.3	0.8	0.5	0.0	0.0	0.3	0.6
	無活動・未定・迷っている	2.4	0.8	2.5	0.9	2.3	2.3	1.7	1.1	2.1	1.7	7.0
	その他・不明	5.0	4.0	4.7	3.5	6.5	3.0	6.7	3.2	7.9	4.3	8.3
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	N	541	504	1629	648	355	732	1368	373	240	1053	157
女性	正社員内定	31.4	36.8	49.3	54.7	44.8	47.1	52.2	43.0	69.2	44.4	17.5
	公務教員内定	3.8	5.5	1.6	5.2	1.4	5.5	2.4	4.0	5.4	2.7	0.7
	契約派遣・非常勤	2.9	3.1	3.9	4.3	4.6	3.4	5.0	3.7	2.9	5.7	0.0
	他内定有	2.3	2.4	2.8	2.0	0.9	1.9	1.9	2.7	1.4	2.5	2.1
	内定なし・就活中	21.6	23.4	16.1	11.7	16.2	22.7	15.8	26.4	7.2	17.5	11.9
	無活動・大学院希望	5.5	12.0	6.2	9.9	12.0	4.4	6.5	4.2	5.4	9.2	16.8
	留学・専門学等希望	2.3	1.7	3.3	1.1	2.1	1.6	2.9	1.5	3.3	3.4	9.1
	無活動・公務教員希望	14.7	2.4	1.5	3.8	4.8	4.1	3.1	2.1	1.4	5.3	7.0
	無活動・就職希望	7.1	6.5	7.3	2.7	5.1	3.3	4.2	4.9	1.1	3.5	15.4
	資格試験準備	0.2	0.3	0.6	0.0	0.9	0.3	0.4	0.4	0.4	0.3	1.4
	無活動・未定・迷っている	3.6	2.7	3.3	2.2	3.0	2.3	1.6	2.6	0.7	2.7	9.8
	その他・不明	4.6	3.1	4.2	2.5	4.2	3.4	3.8	4.8	1.4	2.8	8.4
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	N	477	291	2511	446	433	732	1407	819	276	1305	143

注) 調査対象者の内定率が 90%以上であった大学は、ここでは分析から除外した。

内定者に限って勤務先エリア別に内定先の業種を見たのがつぎの図表 3-14 である。男性ではいずれのエリアでも製造業・建設業が多いが、とくに甲信越では 5 割と顕著に多い。北陸 (37.7%)、近畿 (37.5%)、東北 (35.9%)、未定 (34.6%) も製造業・建設業が多くなっている。関東はソフトウェア・情報処理がその他のエリアとくらべ多くなっている点に特徴がある。女性はいずれのエリアでもその他サービス業が多い。甲信越、北陸、中部で製造業・建設業が 2 割を超えている。

図表 3-14 勤務先エリア別業種

		北海道	東北	関東	甲信越	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	海外	未定
男性	製造業・建設業	21.5	35.9	24.5	50.0	37.7	37.2	37.5	27.4	25.3	21.4	15.0	25.0	34.6
	商社・卸売り	15.2	10.8	9.5	7.3	13.1	10.1	11.2	11.2	14.5	15.9	0.0	12.5	10.6
	百貨店・小売店・飲食店	13.3	7.2	6.1	5.1	4.4	6.5	8.2	11.7	3.6	8.3	0.0	0.0	11.7
	金融・保険業	7.6	4.8	5.6	5.8	9.3	7.4	9.8	16.2	21.7	10.3	25.0	0.0	10.5
	運輸・通信・電気・ガス	3.8	3.6	7.7	4.0	4.4	5.0	4.8	3.0	2.4	6.3	15.0	12.5	7.0
	マスコミ・広告・調査	1.9	3.6	3.8	1.5	1.1	2.0	2.2	1.0	3.6	4.0	0.0	0.0	1.6
	ソフトウェア・情報処理	8.9	14.4	19.8	6.2	7.7	10.6	7.8	9.1	2.4	7.1	10.0	12.5	7.7
	教育	3.2	2.4	1.9	1.1	1.6	1.5	2.6	2.5	1.2	3.2	10.0	0.0	1.2
	その他サービス業	14.6	12.6	15.2	13.1	12.0	12.4	9.6	9.6	8.4	14.3	15.0	25.0	12.1
	公務	7.0	4.2	4.4	4.4	7.1	5.2	5.2	7.6	15.7	6.0	10.0	0.0	1.7
	その他・分類がわからない	1.9	0.6	1.0	1.1	0.0	0.8	0.6	0.5	0.0	1.6	0.0	12.5	0.7
	無回答	1.3	0.0	0.4	0.4	1.6	1.3	0.6	0.0	1.2	1.6	0.0	0.0	0.8
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	N	158	167	1194	274	183	597	501	197	83	252	20	8	2047
女性	製造業・建設業	10.0	13.5	15.7	21.4	22.3	21.6	13.8	16.4	19.2	13.4	26.7	12.5	18.0
	商社・卸売り	6.0	7.9	10.7	3.6	6.5	6.0	10.9	8.9	6.4	10.1	0.0	37.5	6.5
	百貨店・小売店・飲食店	15.3	21.4	10.2	9.1	12.0	6.0	9.5	10.9	9.0	5.8	0.0	12.5	21.0
	金融・保険業	12.7	9.5	13.0	12.7	18.5	13.4	20.0	20.9	21.2	20.6	26.7	0.0	12.2
	運輸・通信・電気・ガス	4.0	3.2	3.9	0.9	1.6	4.8	4.4	2.2	2.6	6.2	0.0	0.0	5.0
	マスコミ・広告・調査	7.3	0.0	4.1	1.8	3.8	3.4	2.3	1.4	1.3	2.7	6.7	0.0	1.3
	ソフトウェア・情報処理	3.3	1.6	9.8	4.5	6.0	3.8	5.5	3.6	1.9	4.1	0.0	0.0	3.4
	教育	6.7	7.9	5.8	10.5	2.7	5.6	7.9	7.2	5.8	7.2	0.0	12.5	5.9
	その他サービス業	29.3	30.2	22.9	28.6	19.0	29.7	21.5	23.7	23.1	23.5	26.7	12.5	21.6
	公務	2.0	3.2	1.8	2.3	5.4	3.4	2.6	2.5	5.1	2.7	6.7	0.0	2.5
	その他・分類がわからない	2.0	0.8	1.3	2.3	2.2	2.0	0.4	1.1	1.9	1.9	0.0	12.5	1.4
	無回答	1.3	0.8	0.7	2.3	0.0	0.4	1.0	1.1	2.6	1.9	6.7	0.0	1.2
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	N	150	126	1400	220	184	501	724	359	156	485	15	8	1422

エリア別に職種を確認すると（図表 3-15）、男性では北海道、近畿、中国、四国、九州、未定で営業・販売職が多い。技術職は東北、関東、甲信越、北陸、中部で3割を超えている。女性は男性よりも事務職とその他の専門職が多く、とくに九州、中部、北陸、近畿で事務職が多くなっている。

図表 3-15 勤務先エリア別職種

		北海道	東北	関東	甲信越	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	海外	未定
男性	決まっていない	14.6	19.8	19.1	25.2	23.0	19.6	21.0	25.4	20.5	22.2	30.0	0.0	26.2
	営業・販売職	41.8	24.0	29.6	18.6	29.0	29.8	38.7	36.5	45.8	37.3	10.0	25.0	39.4
	事務職	5.7	4.2	4.2	2.9	2.7	4.2	2.0	8.1	8.4	6.3	20.0	12.5	2.0
	技術職	18.4	32.3	34.9	31.0	30.6	30.0	28.1	18.8	13.3	21.4	25.0	37.5	24.1
	運輸・通信の仕事	1.9	1.8	1.6	0.7	0.0	0.5	0.8	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	1.2
	保安・サービスの職業	3.8	3.0	3.7	4.4	3.3	4.4	1.8	3.0	3.6	5.2	5.0	0.0	2.6
	製造の職業・技能工	2.5	3.6	0.7	8.4	3.8	3.4	1.8	2.5	2.4	1.6	5.0	0.0	0.8
	教育・保育士	2.5	1.8	1.1	1.1	0.0	1.0	1.2	2.5	1.2	1.2	5.0	0.0	0.6
	その他の専門職	6.3	9.6	5.0	7.3	6.6	5.9	4.4	3.0	3.6	3.6	0.0	12.5	2.8
	その他	2.5	0.0	0.1	0.4	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.0	0.2	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.2
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	N	158	167	1194	274	183	597	501	197	83	252	20	8	2047
	女性	決まっていない	20.0	11.9	15.5	15.5	13.6	13.2	14.8	15.9	15.4	14.2	26.7	25.0
営業・販売職		32.0	27.0	26.1	17.3	29.3	18.6	27.9	28.7	29.5	27.0	6.7	37.5	41.8
事務職		12.0	14.3	23.0	19.1	27.2	28.3	27.1	26.5	26.9	29.1	26.7	0.0	10.2
技術職		4.7	10.3	14.4	13.6	11.4	8.8	7.5	6.4	3.8	9.9	6.7	12.5	7.9
運輸・通信の仕事		0.0	0.8	0.5	0.0	1.1	0.2	1.5	0.3	0.0	0.8	0.0	0.0	0.9
保安・サービスの職業		4.0	1.6	3.2	3.2	3.8	3.8	3.7	2.2	1.9	4.7	0.0	0.0	3.7
製造の職業・技能工		1.3	0.0	0.4	1.8	0.0	0.4	0.7	0.3	0.0	0.8	6.7	0.0	0.4
教育・保育士		6.7	6.3	3.6	8.6	2.7	4.8	6.5	4.5	4.5	4.7	0.0	12.5	1.9
その他の専門職		18.7	27.0	13.1	20.5	10.9	21.4	10.1	15.0	17.3	8.0	26.7	12.5	9.7
その他		0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1
無回答		0.0	0.8	0.1	0.5	0.0	0.6	0.3	0.3	0.6	0.4	0.0	0.0	0.5
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
N		150	126	1400	220	184	501	724	359	156	485	15	8	1422

(6) 小括

これまで確認してきたエリアの特徴を男女差を中心にまとめる。

北海道…地元進学者が9割近くおり多い。家族と同居の割合は男性で5割、女性で6割弱と比較的低い。正社員希望の女性は7.5割と少なめであり、男性よりも9ポイント少ない。仕事への自信は男性で7割、女性で5.5割と男女差がある。男女ともに保護者の意見は4割、援助は6割弱と平均的である。就職プロセスは、企業説明会への参加は男性で3年生3月、女性で4年生4月に5割を超え平均的だが、人事面接は女性で5割を超えるのが4年生の9月と遅い。北海道での内定者のうち男性の4割が営業・販売職、女性で3割が営業・販売職、女性の2割が職種が未定である。

東北…地元進学者は男女ともに4割弱。女性の4割が他のエリア(とくに関東)に進学する。家族と同居の割合は女性のほうが10ポイント多く8.5割である。正社員希望者は男性で9割、女性で8割強と比較的多い。また、仕事への自信は男性で7割弱、女性で5割と男女差がある。保護者の意見は男女ともに4割台と平均的だが、保護者の援助は男性で7割弱と多くなっており、その結果、女性よりも9ポイント近く多く男女差が生じている。就職プロセスは、企業説明会への参加が男女ともに3年生3月に5割を超え、人事面接は女性で4年生5月、男性で4年生6月に5割を超え平均的なプロセスである。東北での内定者のうち男性の2割強が営業・販売職、3割が技術職、女性では3割弱が営業・販売職とその他の専門職である。

関東…地元進学者が男性で7.5割、女性で8割と多い。家族と同居の割合も男女ともに9割

近くで多い。正社員希望の男性は 8.5 割であり女性よりも約 9 ポイント多い。仕事への自信は男性で 7 割と多く、女性よりも 10 ポイント以上多くなっている。保護者の意見は男女ともに 4 割未満であり少ない。保護者の援助は男性で 6.5 割、女性で 7 割近くおり多い。就職プロセスは男女ともに同じプロセスであり他のエリアと比較して早い。関東での内定者のうち男性の 3 割が営業・販売職、3.5 割が技術職、女性では 2.5 割が営業・販売職、2 割強が事務職である。

甲信越…地元進学者は男性で 6 割弱、女性で 4.5 割と男女差がある。家族と同居の割合は女性で 7 割と男性よりも 10 ポイント多い。正社員希望者は男性で 9 割と多く、女性の 8 割と 7.5 ポイントの開きがある。仕事への自信は男性で 6 割弱、女性で 4.5 割と少なめである。保護者の意見は女性で 5 割と多く、男性よりも 8.6 ポイント多い。また、保護者の援助は、女性で 7 割弱と関東と同様に多く、男性よりも 7 ポイント多い。就職プロセスは、5 割を超えるのが、企業説明会の参加が男女ともに 3 年生 3 月と平均的であり、人事面接は男性で 4 年生 4 月、女性で 4 年生 5 月である。甲信越での内定者のうち男性の 3 割が技術職、決まっていないのが 2.5 割、女性ではその他の専門職が 2 割、事務職、営業・販売職がそれぞれ 2 割弱である。

北陸…地元進学者が男性で 4 割、女性で 3 割と少なめである。家族と同居の割合は男性で 8.5 割と高く、女性よりも 5 ポイント多い。正社員希望の男性は 9 割弱と多く、女性は 8 割弱と少ない。仕事への自信は男性で 6 割、女性で 4.5 割と開きがある。保護者の意見は男性は 4 割と少ないが、女性は 5 割と多く、男女差が大きい。保護者の援助は男女ともに 5.5 割程度であり少なめである。就職プロセスは男女で同じであり、企業説明会の参加が 5 割を超えるのが 3 年生 3 月、人事面接は 4 年生 5 月である。北陸での内定者のうち男性の 3 割が技術職と営業・販売職、2 割が決まっていない。女性では 3 割が営業・販売職、3 割弱が事務職である。

中部…地元進学者は男女ともに 5.5 割程度である。家族と同居の割合は男女ともに 9 割と関東と同様に多い。正社員希望者は男女ともに 8.5 割程度であり男女差が小さい。しかし、仕事への自信は男性で 6.5 割、女性で 4.5 割と男女差が大きい。保護者の意見は、男性で 4 割、女性で 4.5 割と平均的である。保護者の援助は男女ともに 6 割である。就職プロセスは、企業説明会への参加は男女ともに 3 年生 3 月に 5 割を超え、人事面接は男性で 4 年生 5 月、女性で 4 年生 6 月である。中部での内定者のうち 3 割が技術職、営業・販売職、女性では 3 割弱が事務職、2 割がその他の専門職である。

近畿…地元進学者は男女ともに 6.5 割である。家族と同居の割合は男性で 8 割、女性で 8.5 割と比較的多い。正社員希望者は男性で 8.5 割、女性で 8 割と平均的である。また、仕事への自信は、男性で 7 割、女性で 6 割と他のエリアと比較して多めである。保護者の意見は、男性で 3.5 割、女性で 4 割と少なめである。保護者の援助は男女ともに 6.5 割程度で比較的多い。就職プロセスは、企業面接への参加が 5 割を超えるのは男

女ともに3年生の2月、人事面接は女性で3年生3月、男性で3年生4月と早めである。近畿での内定者のうち男性の4割弱が営業・販売職、3割弱が技術職、2割が決まっていない。女性では3割弱が営業・販売職と事務職である。

中国…地元進学者が男性で2.5割、女性で4.5割と男女差がある。男性は他のエリアに進学した者（九州、近畿、四国）が多い。家族と同居の割合は女性で8割と平均的だが、男性は7割と少なめである。正社員希望者は男性で8.5割、女性で8割と平均的である。仕事への自信は、男性で5.5割、女性で5割と、男性は他のエリアと比較し低い。保護者の意見は男女ともに5割と多めである。保護者の援助は男性で6割、女性で5.5割と女性で少なめである。就職プロセスは、企業面接が5割を超えるのは、男性で3年生2月、女性で3年生3月、人事面接は、男性で4年生4月、女性で4年生6月と開きがある。中国での内定者のうち男性の3.5割が営業・販売職、2割が決まっていない。女性では4割弱が営業・販売職、2.5割が事務職である。

四国…地元進学者が2.5割弱と少なく、他のエリアに進学した者（近畿、中国、九州）が多い。家族と同居の割合は男女ともに8割程度である。正社員希望者は女性で9割を超え男性よりも10ポイント近く多い。一方、仕事への自信は、男性は7割、女性で5割と男女差が大きい。保護者の意見は、男性で5.5割と多く、女性も5割と多めである。保護者の援助は、男性で6割、女性で5.5割と平均的である。就職プロセスは、企業説明会への出席が5割を超えるのは男性で3年生2月、女性で3年生の3月、人事面接は男女ともに4年生4月である。四国での内定者のうち男性の4.5割が営業・販売職、2割が決まっていない。女性は、3割が営業・販売職と事務職である。

九州…地元進学者は男性で4.5割、女性で5割である。家族と同居の割合は男女ともに8割と平均的。正社員希望者は男性で8.5割と平均的だが、女性は7.5割と低めである。仕事への自信は、男性で6.5割、女性で5割と10ポイントの開きがある。保護者の意見は男性で4.5割、女性で5割と平均的。保護者の援助は男女ともに6割弱と男女差は小さい。就職プロセスは、企業説明会への参加が5割を超えるのは男性で3年生3月、女性で3年生2月である。人事面接は、男女ともに4年生5月である。九州での内定者のうち男性の4割弱が営業・販売職、決まっていないと技術職が2割、女性では3割が事務職、3割弱が営業・販売職である。

沖縄…地元進学者が男性で多く8割いるが、女性は7割弱である。家族と同居の割合は男女ともに8.5割である。正社員希望者が少なく、男性で6.5割、女性で3.5割ととくに少ない。仕事への自信は男性で7割弱、女性で5割と男女差が大きい。保護者の意見は男女ともに5割と多めである。一方で、保護者の援助は男性で6割なのに対し、女性で4.5割と低くなっている。就職プロセスは、男女ともに他のエリアと比較して遅い。男性は人事面接が4年生7月に5割を超えるが、企業面接は調査時点で5割を超えない。また、女性は調査時点において両方とも5割に満たない。

3. 就職活動と地域移動

この節では、就職にあたり、どのような学生がどのように移動しているかを明らかにしていく。学生は高校から大学へ、大学から勤務先へと移動する。移動にあたっては、移動についての個人の価値観、移動や職業についての地域の規範、そして地域労働市場が影響を及ぼしていると予想できる。就職にあたって地域重視の価値観は実際の移動に影響を与えているだろうか。また、移動と就職との関連はどうなっているだろうか。

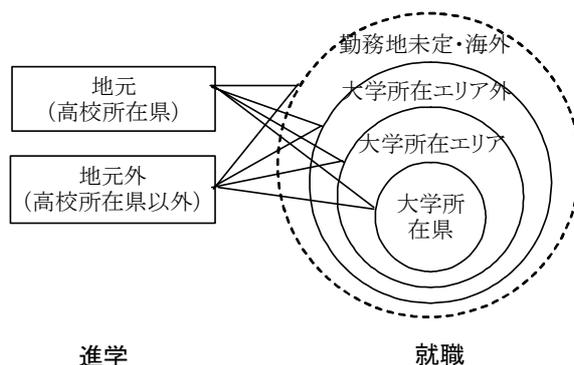
さらに、移動パターンの分析はキャリア形成支援にあたって重要な課題を提起してくれる。最後にこの点についても検討したい。

(1) 移動パターン

学生は大学周辺のみならず、地元に戻って就職活動をしたり、他のエリアで就職している者も多いと予想できる。以下では、高校所在地を「地元」として理解し、高校から大学へ、大学から就職へ、という2時点の移動を捉えていく。

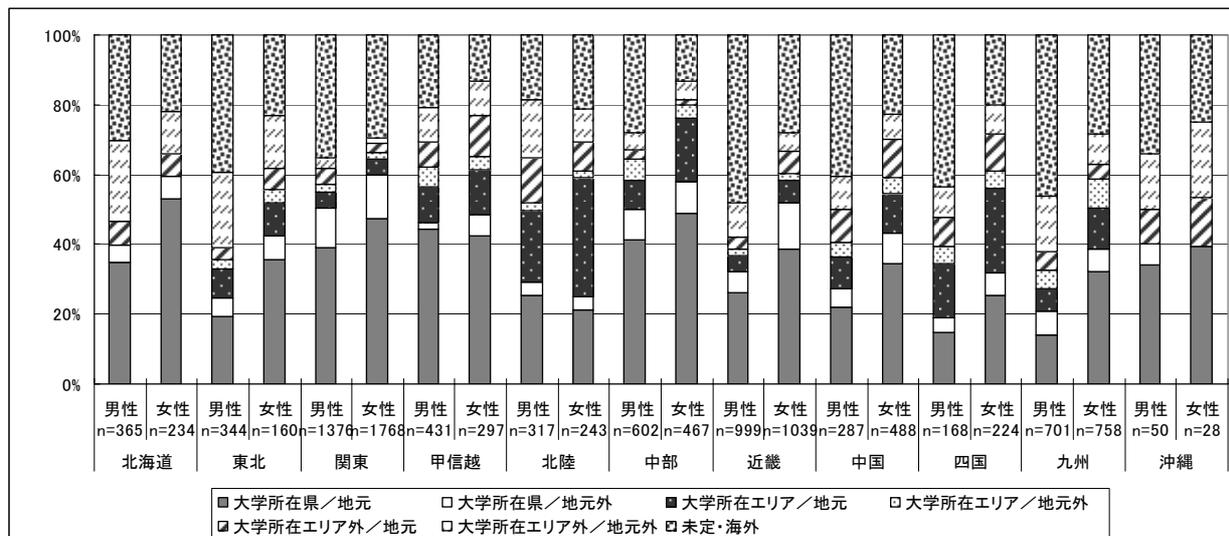
図表3-16は移動パターンの概念図である。勤務地が地元であるか、地元外であるか、同時に、大学所在県であるか、大学所在エリアであるか、大学所在エリア外であるか、また、未定あるいは海外であるかによって、7つのパターンに分類した。ここでは、「大学所在エリア」に隣県を含めた。たとえば、「大学所在県/地元」とは、高校、大学、勤務先がいずれも同じ都道府県であり、他の都道府県に移動していないことを意味する（以下、＜全地元＞とする）。反対に「大学所在エリア外/地元外」とは、高校から大学への進学でも移動し、就職の際も大きく移動することを意味している。

図表3-16 移動パターン



以上をふまえ、以下ではエリア別に移動パターンを見ていく。

図表 3-17 大学所在エリア別移動パターン



図表 3-17 を見ると、学生の移動の傾向は大学所在エリア別、性別によって異なっている。北海道では、男性は＜全地元＞が 34.8%、「未定・海外」が 30.1%、「大学所在エリア外/地元外」が 23.3%である。女性は、＜全地元＞が 53.0%と半数を超え、「未定・海外」(21.8%)がつぎに多い。

東北では、男性は「未定・海外」が 39.2%ともっとも多く、「大学所在エリア外/地元外」が 21.8%とつぎに多い。＜全地元＞は 19.2%で他のエリアと比較しても少ない数値となっている。女性では＜全地元＞が 35.6%ともっとも多く、つぎに「未定・海外」が 23.1%で多い。

関東では、男性は＜全地元＞が 39.1%、「未定・海外」が 35.2%となっている。女性では＜全地元＞が 47.5%おり、つぎに「未定・海外」が 29.5%となっている。また、関東は「大学所在県/地元外」が男性で 11.3%、女性で 12.3%とほかのエリアとくらべて多くなっていることに特徴がある。また、他のエリアとくらべ比較的男女差が小さい。

甲信越では、男性は＜全地元＞が 44.3%、「未定・海外」が 20.6%である。女性は＜全地元＞が 42.4%、「未定・海外」が 13.1%、「大学所在エリア/地元」が 12.8%である。

北陸では、男性は＜全地元＞が 25.2%、「大学所在エリア/地元」が 20.5%、「未定・海外」が 18.6%、「大学所在エリア外/地元外」が 16.7%と移動パターンに散らばりがある。女性では「大学所在エリア/地元」が 34.2%ともっとも多く、＜全地元＞と「未定・海外」が 21.4%である。男女ともに他のエリアと比較しても＜全地元＞が少なく、「大学所在エリア/地元」が多いことに特徴がある。

中部では、男性は＜全地元＞が 41.2%、「未定・海外」が 28.1%となっている。女性は＜全地元＞が 48.8%、「大学所在エリア/地元」が 18.2%であり、「大学所在エリア/地元」が比較的多い。中部は関東と同様に＜全地元＞の割合が高く、「大学所在エリア外」での就職が少ないことに特徴がある。

近畿では、男性は「未定・海外」が47.9%と半数近くおり、つぎに＜全地元＞が26.1%いる。女性は＜全地元＞が38.6%、「未定・海外」が27.9%、「大学所在県／地元外」が13.2%いる。「大学所在県／地元外」の割合が他と比較して多い。

中国では、男性は「未定・海外」が40.4%、＜全地元＞が22.0%となっている。女性は＜全地元＞が34.6%、「未定・海外」が22.7%である。「大学所在エリア外／地元」が比較的多い（男性9.8%、女性11.1%）。

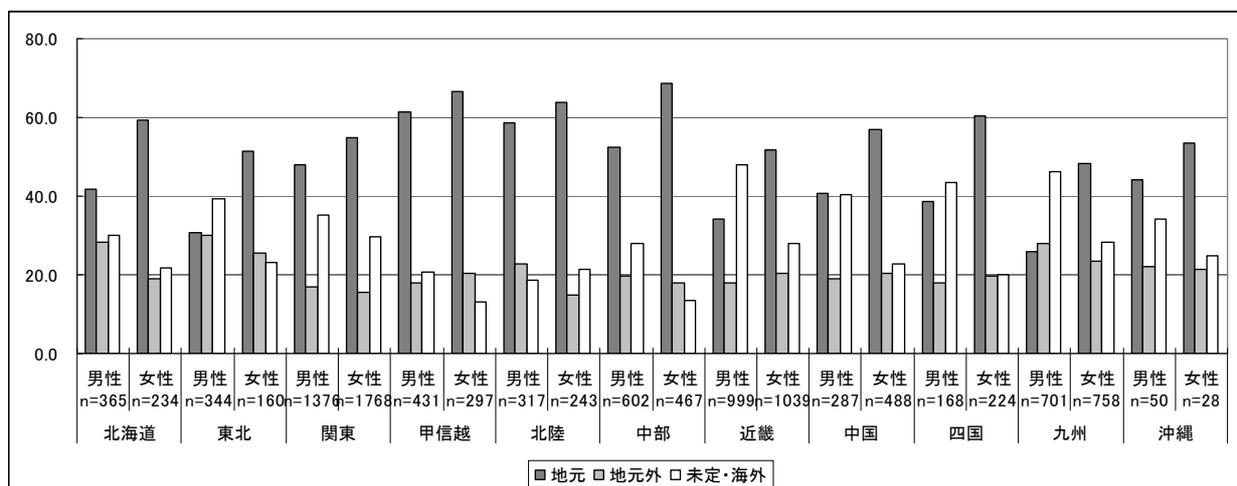
四国では、男性は「未定・海外」が43.5%、「大学所在エリア／地元」が15.5%、＜全地元＞が14.9%である。女性は＜全地元＞が25.4%、「大学所在エリア／地元」が24.6%、「未定・海外」が20.1%と移動パターンが分かれている。四国では＜全地元＞の割合がほかと比べて低く、「大学所在エリア／地元」の割合が高いことに特徴がある。

九州は、男性で「未定・海外」が46.2%、「大学所在エリア外／地元外」が15.8%、＜全地元＞が14.1%となっている。女性は＜全地元＞が32.3%、「未定・海外」が28.2%となっている。＜全地元＞の割合が男性で低いため、男女差が大きくなっている。

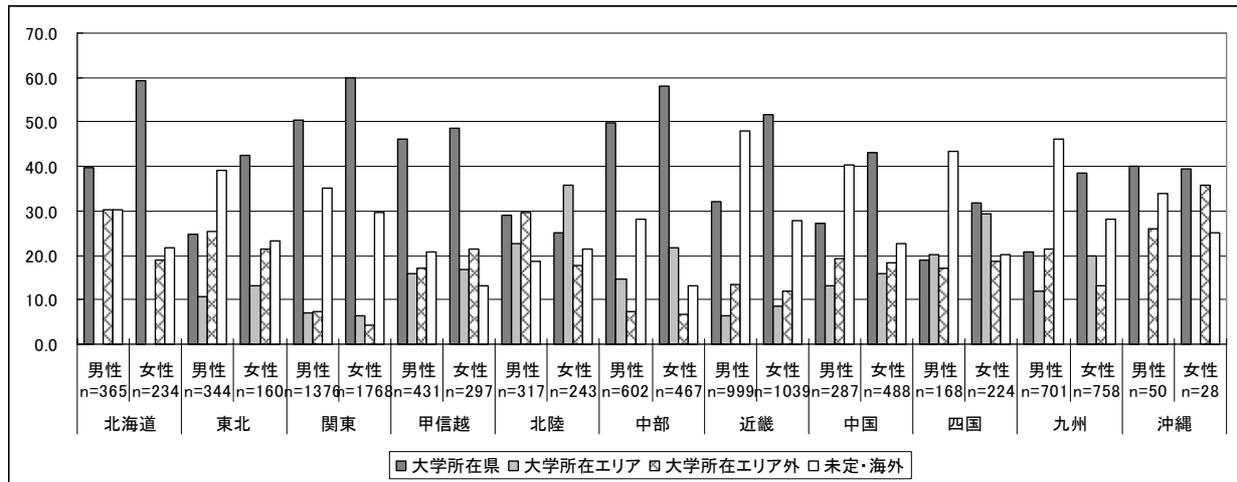
沖縄では、男性が＜全地元＞と「未定・海外」が34.0%である。女性は＜全地元＞が39.3%、「未定・海外」が28.2%となっている。

つぎの図表3-18、19は図表3-17を地元／地元外での就職かどうか、大学所在県／エリア／エリア外での就職かどうかに分けて示したものである。

図表3-18 地元／地元外での就職



図表3-19 大学所在県／エリア／エリア外での就職



地元で就職した者の割合は、男性では甲信越、北陸、中部でのみ過半数いる。女性では九州以外で地元就職者が過半数いた。東北、近畿、四国、九州の男性では地元就職よりも「未定・海外」のほうが多くなっている。

大学所在県で就職した者は、北海道（女性）、関東、中部（女性）、近畿（女性）で過半数いた。反対に、四国（男性）、九州（男性）では大学所在県での就職が2割程度と少なくなっている。大学所在エリアでの就職は、北陸（女性）、四国（女性）が3割おり、比較的多い。大学所在エリア外での就職を見ると、東北（男性）、北陸（男性）、沖縄で3割程度おり、比較的多くなっている。未定・海外を見ると、甲信越、北陸、中部以外の男性で3割を超えていた。

(2) 大学設置者、学部の別と移動パターン

つぎに、大学設置者による移動パターンの割合を見てみると（図表3-20）、私立で＜全地元＞が多く、国立、公立では「大学所在エリア外／地元外」が私立よりも多くなっていることが分かる。私立のなかでくらべると、設置が新しい私立ほど＜全地元＞の割合が高くなっている。反対に、「大学所在県／地元外」は私立（90年～）で少ない。このように私立（90年～）で地元での就職が多くなっている。これに対して、大学所在県での就職は、私立（～50年）と私立（50～90年）で多い。また、私立（90年～）では「未定・海外」が少ない。

図表 3-20 大学設置者と移動パターン

		国立	公立	私立	私立(~50年)	私立(50~90年)	私立(90年~)		
男性	大学所在県	地元	15.5	25.4	34.9	37.2	27.8	48.3	p=.000
		地元外	5.9	5.4	7.5	10.3	7.6	3.6	
	大学所在エリア	地元	9.5	7.0	6.3	3.9	6.9	8.3	
		地元外	5.8	3.0	2.7	2.1	2.9	3.0	
	大学所在エリア外	地元	8.5	10.1	4.0	4.0	4.5	2.7	
		地元外	14.7	16.1	8.7	7.3	9.7	8.3	
	未定・海外	40.2	33.0	35.9	35.1	40.6	25.9		
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	N	1057	497	4086	1193	2027	866		
	女性	大学所在県	地元	27.0	27.7	45.4	46.6	44.8	
地元外			7.8	9.1	10.2	10.5	11.4	6.4	
大学所在エリア		地元	14.1	9.1	9.1	6.3	8.4	17.8	
		地元外	6.0	6.6	2.2	1.9	1.8	4.3	
大学所在エリア外		地元	8.2	12.6	4.1	3.7	5.1	2.1	
		地元外	11.0	12.4	3.9	4.5	3.8	2.7	
未定・海外		25.9	22.4	25.2	26.7	24.8	22.8		
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
N		991	548	4167	1615	1878	674		

移動パターンと学部との関係を見たのが、つぎの図表 3-21 である。

男女ともに社会福祉系で＜全地元＞が多く（男性 45.5%、女性 51.0%）、理・農・薬学系では少なくなっている（男性 22.2%、女性 28.2%）。そのほか、教育（男性 39.1%、女性 44.9%）、社会科学系（男性 32.5%、女性 41.1%）、人文科学系の女性（44.4%）で＜全地元＞が多い。また、芸術系の男性で「大学所在エリア外／地元外」が多くなっている（32.2%）。さらに、「未定・海外」は文理融合・水産他の男性（53.4%）、理・農・薬学系の男性（44.9%）、人文科学系の男性（41.0%）で多い。

図表 3-21 学部と移動パターン

		人文科学系	社会科学系	工学	理・農・薬学	教育	家政・生活科学	芸術	社会福祉	文理融合・水産他		
男性	大学所在県	地元	26.4	32.5	29.8	22.2	39.1	20.7	25.4	45.5	16.4	p=.000
		地元外	7.5	6.4	8.2	4.7	3.4	6.9	11.9	3.6	9.6	
	大学所在エリア	地元	10.0	8.1	5.7	4.1	5.7	3.4	1.7	13.6	2.7	
		地元外	3.2	2.3	4.2	2.6	2.3	20.7	1.7	5.5	6.8	
	大学所在エリア外	地元	4.0	5.2	4.7	10.8	11.5	3.4	8.5	4.5	5.5	
		地元外	8.0	7.1	14.4	10.8	16.1	10.3	32.2	2.7	5.5	
	未定・海外	41.0	38.6	33.0	44.9	21.8	34.5	18.6	24.5	53.4		
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	N	402	2393	2144	343	87	29	59	110	73		
	女性	大学所在県	地元	44.4	41.1	36.7	28.2	44.9	38.5	33.9	51.0	
地元外			10.7	8.7	9.3	8.1	8.5	11.2	11.6	9.1	9.1	
大学所在エリア		地元	9.8	12.0	5.9	8.9	8.5	9.8	6.0	12.4	11.7	
		地元外	2.7	2.7	3.0	4.1	3.8	4.8	2.1	4.4	11.7	
大学所在エリア外		地元	4.2	5.7	4.1	10.6	5.6	6.3	7.3	4.7	6.5	
		地元外	4.0	6.0	11.8	9.1	7.7	2.3	13.7	1.7	9.1	
未定・海外		24.3	23.8	29.2	31.1	20.9	27.1	25.3	16.8	33.8		
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
N		1875	1512	439	518	234	520	233	298	77		

(3) 職業意識と移動パターン

さて、先に述べたように、職業意識は移動に影響を与えていると予想できる。そこで、就職にあたり、地域条件を重視しているかどうかと実際の移動との関係を見てみたい。図表3-22は、地域重視志向と移動パターンとの関係も見たものである。比較対象として、企業の業種・仕事内容を重視しているかどうかと移動パターンとの関係も取り上げる。それぞれ、就職にあたって第3位までに重視すると回答した者を「重視する」に含めた。

地域条件を重視すると回答した者のうち、男女ともに<全地元>の割合が、重視しないと回答した者よりも多い。また、地域条件を重視すると回答した者のうち、「大学所在エリア/地元」の割合も比較的多い。反対に、地域条件を重視しない者では、重視する者よりも「未定・海外」が10ポイント以上、上回っている。このように、地域条件を重視する者は、実際に地元で就職する割合が高くなっている。

対照的に、企業の業種・仕事内容を重視する者では、重視しない者よりも<全地元>の割合が低く、「未定・海外」が多くなっている。この傾向はとくに女性で顕著である。

図表3-22 地域重視志向と移動パターン

		地域条件		p=	企業の業種・仕事内容		p=	
		重視する	重視しない		重視する	重視しない		
男性	大学所在県	地元	38.2	p=.000	29.2	p=.000	33.8	
		地元外	7.2		7.0		7.4	6.1
	大学所在エリア	地元	11.1		4.7		6.4	8.9
		地元外	3.3		3.3		3.2	3.5
	大学所在エリア外	地元	9.0		3.3		5.1	6.2
		地元外	6.6		12.6		11.1	8.5
	未定・海外	24.5	43.2		37.6		33.0	
	合計	100.0	100.0		100.0		100.0	
	N	2041	3594		4202		1433	
	女性	大学所在県	地元		44.4		p=.000	39.0
地元外			9.0	10.4	9.9	9.2		
大学所在エリア		地元	13.4	6.5	9.5	11.3		
		地元外	3.3	3.2	3.3	3.1		
大学所在エリア外		地元	7.6	3.6	5.2	6.7		
		地元外	4.1	7.6	6.3	4.9		
未定・海外		18.0	31.9	26.8	19.6			
合計		100.0	100.0	100.0	100.0			
N		2797	2906	4326	1377			

つぎに、応募先で重視したものを移動パターン別に見たのが図表3-23である。地元で就職した者は地元外で就職した者よりも「地域条件」を重視しており、反対に地元外で就職した者はより「企業の業種・仕事の種類」を重視していることが分かる。また、「未定・海外」では「企業の業種・仕事の種類」と「自分の能力や適性と合っていること」を重視している。

図表 3-23 応募先で重視する条件と移動パターン

		大学所在県		大学所在エリア		大学所在エリア外		未定・海外	
		地元	地元外	地元	地元外	地元	地元外		
男性	大学での専門分野との関連	8.5	8.1	7.1	10.8	8.9	13.6	7.9	p=.000
	企業の業種・仕事の種類	43.8	50.9	38.6	45.7	37.0	50.8	50.7	
	企業の知名度	2.3	1.3	0.8	3.2	1.3	2.0	2.5	
	企業の将来性・安定性	9.5	8.3	11.2	8.6	10.6	8.0	11.8	
	正社員かどうか	4.8	2.5	3.8	3.8	3.3	3.2	2.7	
	OB・OGの有無や定着度の高さ	0.1	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.1	
	勤務時間・休暇・福利厚生など	3.5	3.8	4.1	4.3	4.0	2.5	2.9	
	給料	2.8	3.0	1.5	3.8	2.3	1.7	2.5	
	地域条件	12.4	9.1	23.6	8.6	21.1	5.1	5.5	
	自分の能力や適性とあっていること	11.4	12.3	8.9	10.2	10.6	12.1	12.6	
	無回答	0.8	0.8	0.5	0.5	1.0	1.0	0.7	
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	N	1712	397	394	186	303	589	2054	
女性	大学での専門分野との関連	9.1	10.6	10.2	15.5	14.4	10.1	9.2	
	企業の業種・仕事の種類	43.7	49.3	41.9	46.0	42.6	52.7	50.8	
	企業の知名度	0.9	1.1	0.9	0.0	0.6	0.3	2.2	
	企業の将来性・安定性	5.7	4.2	5.5	3.2	6.0	5.0	6.5	
	正社員かどうか	6.8	3.8	3.5	6.4	2.8	3.6	5.4	
	OB・OGの有無や定着度の高さ	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	
	勤務時間・休暇・福利厚生など	3.8	2.5	3.5	3.2	2.8	1.5	2.4	
	給料	0.9	1.8	1.1	1.1	0.9	0.9	0.8	
	地域条件	14.1	6.7	23.5	9.6	20.1	7.4	7.3	
	自分の能力や適性とあっていること	13.9	19.0	9.0	14.4	9.4	17.8	15.0	
	無回答	1.0	0.9	0.9	0.5	0.3	0.6	0.3	
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	N	2309	554	566	187	319	338	1430	

移動パターンと内定先のコースは関連があると予想できる。いわゆる「エリア総合職」は就職後の移動をあらかじめ制限するコースである。図表 3-24 で、内定先のコースと移動パターンの関係を見ると、「未定・海外」で男女ともに総合職が多い(男性 55.8%、女性 42.3%)。反対に、男性では「大学所在エリア」で総合職が少なくなっている。女性では、地元での就職で総合職が少なく、一般職が多くなっている。エリア総合職はいずれのパターンでも少なかった。

図表 3-24 コースと移動パターン

		大学所在県		大学所在エリア		大学所在エリア外		未定・海外	
		地元	地元外	地元	地元外	地元	地元外		
男性	総合職	42.7	46.9	38.3	34.9	46.5	42.0	55.8	p=.000
	一般職	14.9	16.6	16.2	22.6	11.2	12.7	10.3	
	いわゆるコース別採用はない	36.5	31.0	39.1	34.9	37.0	36.9	27.0	
	その他	3.4	4.3	3.8	4.8	3.0	4.9	4.7	
	エリア総合職	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	
	無回答	2.3	1.0	2.5	2.7	2.3	3.4	2.0	
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	N	1713.0	397.0	394.0	186.0	303.0	590.0	2055.0	
女性	総合職	24.5	27.6	19.4	24.6	27.3	37.6	42.3	p=.000
	一般職	28.5	20.9	29.3	18.2	21.6	10.7	14.8	
	いわゆるコース別採用はない	34.8	41.3	41.2	44.9	38.6	36.4	31.3	
	その他	7.9	7.2	8.0	9.1	8.2	12.4	8.5	
	エリア総合職	1.3	0.7	0.4	0.0	0.9	0.0	0.8	
	無回答	3.0	2.2	1.8	3.2	3.4	3.0	2.3	
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	N	2309.0	554.0	566.0	187.0	319.0	338.0	1430.0	

つぎに、移動パターンと内定先への勤務予定期間の関係を示したのが、つぎの図表 3-25 である。

男性では、「定年まで勤めたい」と回答した者は地元外よりも地元で就職した者に多い。一番多いのは「大学所在エリア／地元」の 47.7%であった。反対に、「2～3年」と回答した者は地元外で就職した者が多い。とくに、「大学所在エリア／地元外」(10.2%)と多かった。女性では、「5年くらい」回答した者が男性よりも多いが、とくに「大学所在エリア／地元外」で 31.6%と多くなっている。また、「わからない」と回答した者が「未定・海外」で 34.1%と多い。

男女ともに「大学所在エリア／地元外」で勤務予定年数が少なくなっていることから、就職先にもっとも不満がある人々であると予想できる。就職活動に関する学生の意見については、つぎの節で確認する。

図表 3-25 内定先に勤め続ける予定の年数

		大学所在県		大学所在エリア		大学所在エリア外		未定・海外	
		地元	地元外	地元	地元外	地元	地元外		
男性	1年未満	0.5	0.3	0.3	0.5	0.0	0.7	0.3	p=.000
	2～3年	5.7	6.3	4.3	10.2	5.0	6.9	4.9	
	5年くらい	10.2	14.4	6.6	12.9	5.0	17.8	10.4	
	10年以上	16.5	18.6	14.5	19.4	15.8	20.0	18.0	
	定年まで勤めたい	38.6	28.0	47.7	33.9	44.6	28.8	33.9	
	わからない	28.2	32.0	26.1	23.1	29.7	24.9	32.0	
	無回答	0.3	0.5	0.5	0.0	0.0	0.8	0.6	
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
N	1713	397	394	186	303	590	2055		
女性	1年未満	0.5	0.9	1.6	0.0	0.0	0.0	0.6	p=.000
	2～3年	14.9	17.9	15.7	14.4	19.7	15.4	12.5	
	5年くらい	24.6	26.7	21.0	31.6	21.3	25.7	22.2	
	10年以上	18.8	16.1	14.5	13.9	16.3	18.6	18.0	
	定年まで勤めたい	12.6	10.5	15.7	14.4	13.2	13.0	12.0	
	わからない	28.1	27.4	31.4	25.1	28.8	27.2	34.1	
	無回答	0.4	0.5	0.0	0.5	0.6	0.0	0.6	
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
N	2309	554	566	187	319	338	1430		

さて、先に見てきた要因のなかで移動パターンを規定するものは何であるのかを、二項ロジスティック分析により検討した。ここでは移動パターンのなかでも<全地元>、「大学所在エリア外／地元外」、「未定・海外」を規定した要因について検討する。使用した独立変数は図表 3-26 のとおりである。

図表 3-26 独立変数

独立変数	
男性ダミー	男性=1、女性=0
国立大学ダミー	国立大学=1、公立大学=0、私立大学=0
私立大学ダミー	私立大学=1、国立大学=0、公立大学=0
大学都市ダミー	関東、中部、近畿=1、北海道、東北、甲信越、北陸、中国、四国、九州、沖縄=0
高校都市ダミー	関東、中部、近畿=1、北海道、東北、甲信越、北陸、中国、四国、九州、沖縄=0
仕事内容重視	「企業の業種・仕事内容」を重視する=1、重視しない=0
地域志向	「地域条件」を重視する=1、重視しない=0
保護者意見	「私の親や保護者は、進路や就職先について具体的に意見や希望を言うことがよくある」という質問項目に対し「よくあてはまる」=4、「まああてはまる」=3、「あまりあてはまらない」=2、「まったくあてはまらない」=1として得点を与えた。
保護者支援	「就職活動にかかるお金を保護者に援助してもらった」という質問項目に対し「よくあてはまる」=4、「まああてはまる」=3、「あまりあてはまらない」=2、「まったくあてはまらない」=1として得点を与えた。
正社員志向	「大学を卒業するときには、何が何でも正社員として就職したい」という質問項目に対し「よくあてはまる」=4、「まああてはまる」=3、「あまりあてはまらない」=2、「まったくあてはまらない」=1として得点を与えた。
仕事に自信	「仕事に就いたらうまくできる自信がある」という質問項目に対し「よくあてはまる」=4、「まああてはまる」=3、「あまりあてはまらない」=2、「まったくあてはまらない」=1として得点を与えた。

図表 3-27 を見ると、＜全地元＞を規定している要因は、男性でないこと、私立大学、大学が都市にあること、高校が都市であったこと、地域志向であること、保護者の支援がないことが 0.1%水準で有意であった。つぎに、仕事内容を重視しないことが 1%水準で有意であった。

「大学所在エリア外／地元外」を規定している要因は、男性であること、私立大学ではないこと、大学が都市にないこと、地域志向でないこと、保護者が意見を言わないこと、保護者の支援があることが 0.1%水準で有意であった。つぎに、国立大学ではないことが 1%水準で有意であった。

「未定・海外」を規定している要因は、男性であること、大学が都市にあること、高校が都市にないこと、地域志向ではないこと、保護者が意見を言わないことが 0.1%水準で有意であった。つぎに、国立大学であること、仕事内容を重視することが 1%水準で有意であった。

以上のように、＜全地元＞と「未定・海外」を規定する要因は反対の傾向にあり、「大学所在エリア外／地元外」と「未定・海外」を規定する要因は近い傾向にあることが明らかになった。

図表 3-27 移動パターンの規定要因（二項ロジスティック回帰分析）

	<全地元>		大学所在エリア外/地元外		未定・海外	
	B	Exp (B)	B	Exp (B)	B	Exp (B)
男性ダミー	-0.406	0.666 ***	0.500	1.648 ***	0.460	1.584 ***
国立大学ダミー	-0.188	0.829 *	-0.316	0.729 **	0.298	1.347 **
私立大学ダミー	0.548	1.730 ***	-0.580	0.560 ***	0.046	1.047
大学都市ダミー	0.339	1.403 ***	-1.119	0.327 ***	0.171	1.186 ***
高校都市ダミー	0.806	2.238 ***	-0.141	0.868 +	-0.184	0.832 ***
仕事内容重視	-0.149	0.862 **	0.169	1.184 +	0.173	1.189 **
地域志向	0.496	1.643 ***	-0.799	0.450 ***	-0.781	0.458 ***
保護者意見	0.066	1.023 **	-0.135	0.899 ***	-0.086	1.029 ***
保護者支援	-0.077	1.068 ***	0.192	0.874 ***	0.016	0.918
正社員志向	0.023	1.013	-0.106	1.057 *	0.029	0.973
仕事に自信	0.013	0.926	0.055	1.212	-0.028	1.016
定数	-1.520	0.219 ***	-1.594	0.203 ***	-0.865	0.421 ***
カイ2乗	1028.458 ***		544.441 ***		600.388 ***	
Cox & Snell R square	0.087		0.047		0.051	
Nagelkerke R square	0.119		0.108		0.073	
N	11362		11362		11362	

***p<.001、**p<.01、*p<.05、+p<.1

（3）就職活動についての学生の意見と移動パターン

この節では、移動パターン別に就職活動についての学生の意見を見ることで、キャリア形成支援の課題を検討したい。図表 3-25 で見たように、「大学所在エリア/地元外」で勤務予定年数が少なくなっているが、就職活動に対する自己採点を見ると、やはり「大学所在エリア/地元外」で自己採点が低くなっている（男性：平均 66.6、女性：平均 66.8）。反対にもっとも高いのは、男性では「大学所在県/地元外」の 72.1、つぎに「大学所在エリア/地元」の 70.8 である。女性では「大学所在エリア外/地元外」の 73.7、つぎに「未定・海外」の 70.7 であった。

図表 3-28 就職活動に対する自己採点

		平均値	中央値	度数
男性	大学所在県	地元	68.3	70
		地元外	72.1	75
	大学所在エリア	地元	70.8	72
		地元外	66.6	70
	大学所在エリア外	地元	68.6	70
		地元外	70.1	75
未定・海外	70.6	73	2041	
女性	大学所在県	地元	70.6	73
		地元外	68.3	70
	大学所在エリア	地元	68.0	70
		地元外	66.8	70
	大学所在エリア外	地元	66.8	70
		地元外	73.7	80
	未定・海外	70.7	71.5	1416

このような就職活動に対する自己評価をふまえ、就職活動に対する学生の意見を移動パターンごとに分析する。

「大学の休業中に説明会や面接をしてほしい」のは男女ともに「大学所在エリア外/地元」

でもっとも多い(男性 49.8%、女性 52.0%)。つぎに「大学所在エリア外/地元外」(男性 46.3%、女性 47.0%)であった。大学所在エリア外での就職活動は移動に時間がかかるため、このような意見を持つ割合が高いものと理解できる。

図表 3-29 「大学の休業中に説明会や面接をしてほしい」

			どちらか		いいえ	無回答	合計	N		
			はい	どちらか という はい						どちらか という いいえ
男性	大学所在県	地元	38.7	27.8	16.7	16.0	0.8	100.0	1712	p=.018
		地元外	41.3	24.2	17.1	16.6	0.8	100.0	397	
	大学所在エリア	地元	41.1	26.9	14.7	15.7	1.5	100.0	394	
		地元外	37.6	30.6	15.6	16.1	0.0	100.0	186	
	大学所在エリア外	地元	49.8	23.1	11.6	14.5	1.0	100.0	303	
		地元外	46.3	26.3	11.0	15.3	1.0	100.0	589	
	未定・海外		40.3	27.5	14.3	17.5	0.5	100.0	2054	
	女性	大学所在県	地元	38.2	32.4	15.2	13.1	1.1	100.0	
地元外			41.0	30.5	15.7	11.9	0.9	100.0	554	
大学所在エリア		地元	42.0	31.3	14.0	12.0	0.7	100.0	566	
		地元外	41.2	35.8	11.2	11.2	0.5	100.0	187	
大学所在エリア外		地元	52.0	27.9	11.6	7.8	0.6	100.0	319	
		地元外	47.0	27.2	10.7	13.3	1.8	100.0	338	
未定・海外			41.5	30.3	15.8	11.7	0.7	100.0	1430	

「出身大学からの採用実績が評価されている」と回答した者を見ると、男性では移動パターンによってそれほど相違がないが、女性では<全地元>で多くなっている。

図表 3-30 「出身大学からの採用実績が評価されている」と移動パターン

			はい	どちら		いいえ	無回答	合計	N	
				かとい うとい い	かとい うとい いえ					
男性	大学所在県	地元	16.1	31.9	32.4	18.9	0.8	100.0	1712	p=.289
		地元外	16.4	34.0	27.2	21.7	0.8	100.0	397	
	大学所在エリア	地元	14.7	27.7	36.0	20.6	1.0	100.0	394	
		地元外	11.3	36.6	32.3	19.9	0.0	100.0	186	
	大学所在エリア外	地元	16.8	33.0	25.7	23.8	0.7	100.0	303	
		地元外	16.0	31.6	28.0	23.6	0.8	100.0	589	
	未定・海外		16.4	32.4	30.3	20.1	0.8	100.0	2054	
	女性	大学所在県	地元	12.6	35.9	33.8	16.5	1.1	100.0	
地元外			15.7	28.3	37.4	17.1	1.4	100.0	554	
大学所在エリア		地元	8.8	33.0	38.3	19.3	0.5	100.0	566	
		地元外	10.2	32.6	39.0	16.0	2.1	100.0	187	
大学所在エリア外		地元	11.6	30.1	37.0	20.4	0.9	100.0	319	
		地元外	11.5	32.2	30.2	24.9	1.2	100.0	338	
未定・海外			9.9	34.3	33.6	21.5	0.8	100.0	1430	

つぎに、大学の就職部に対する学生の意見を見る。

大学の就職部で役立ったものを見ると(図表 3-31)、移動パターンによって異なることが分かる。

図表 3-31 移動パターン別 大学の就職部で役に立ったもの

		大学所在県		大学所在エリア		大学所在エリア外		未定・海外	
		地元	地元外	地元	地元外	地元	地元外		
男性	N	1712	397	394	186	303	589	2054	
	就職手帳・ノート	42.8	43.6	37.6	28.0	32.3	37.9	41.6	p=.007
	個別企業の情報・求人情報	61.7	64.7	54.3	60.8	46.2	54.7	59.8	p=.000
	適性検査	40.4	45.8	39.8	32.8	36.6	36.3	39.7	p=.026
	OB・OGの名簿や紹介	12.7	14.1	10.2	15.1	9.2	12.9	13.3	p=.078
	就職模擬試験・SPI対策・模擬面接	46.9	45.8	42.9	40.3	38.6	44.7	44.2	p=.011
	公務員試験・教員試験の対策	10.0	9.3	18.0	15.1	14.9	9.7	8.0	p=.000
	履歴書・エントリーシートの書き方などの指導	61.7	60.7	56.3	61.3	48.8	49.7	57.9	p=.000
	資格取得のための支援	15.2	12.8	17.8	14.0	14.9	13.1	12.3	p=.140
女性	N	2309	554	566	187	319	338	1430	
	就職手帳・ノート	46.2	49.5	46.8	33.7	42.9	36.7	42.4	p=.005
	個別企業の情報・求人情報	67.0	67.9	65.9	64.2	50.5	54.4	61.0	p=.000
	適性検査	45.9	44.0	39.8	38.5	42.6	38.8	44.2	p=.000
	OB・OGの名簿や紹介	19.9	18.1	13.3	11.8	11.3	15.4	18.0	p=.004
	就職模擬試験・SPI対策・模擬面接	52.8	51.6	51.8	49.2	42.0	43.2	51.3	p=.000
	公務員試験・教員試験の対策	10.5	9.0	17.1	13.9	10.3	10.4	8.3	p=.000
	履歴書・エントリーシートの書き方などの指導	69.5	65.7	73.1	60.4	59.6	53.0	66.4	p=.000
	資格取得のための支援	24.1	23.1	28.3	19.3	20.4	13.6	19.5	p=.002

注) 数値は「役に立った」+「やや役に立った」を合わせたもののみ示した。

「就職手帳・ノート」は「大学所在エリア／地元外」では男女ともに「役に立った+やや役に立った」と回答した者がもっとも少なかった（男性 28.0%、女性 33.7%）。

「個別企業の情報・求人情報」では移動パターンによって有意な差があり、「役に立った+やや役に立った」と回答した者は、男女ともに「大学所在エリア外／地元」でもっとも少なく（男性 46.2%、女性 50.5%）、「大学所在県／地元外」でもっとも多かった（男性 64.7%、女性 67.9%）。<全地元>でも役に立ったと回答した者が多かったことから、U ターン就職者にとって個別企業の情報・求人情報はあまり役に立たない傾向にあるが、大学所在県での就職には役に立っていると見えよう。

「適性検査」は女性のみ有意な差があった。男女ともに大学所在県での就職に役立ったと回答したものが多し。

「OB・OG の名簿や紹介」は女性のみ 1%水準で有意な差が見られたが、「役に立った+やや役に立った」と回答した者は男女ともに 2割を切っている。

「就職模擬試験・SPI 対策・模擬面接」も女性のみ 0.1%水準で有意な差があった。男女ともに「大学所在エリア外／地元」で「役に立った+やや役に立った」と回答した者が少なかった（男性 38.6%、女性 42.0%）。これに対し、<全地元>では男性 46.9%、女性 52.8%と もっとも役に立ったと回答した者が多かった。

「公務員試験・教員試験の対策」は男女ともに 2割を切っていたが、大学所在エリアでの就職に「役に立った+やや役に立った」と回答した者が多し。

「履歴書・エントリーシートの書き方などの指導」は、男性では「大学所在県／地元」が多く（61.7%）、大学所在エリア外での就職で少なくなっていた。女性では「大学所在エリア／地元」でもっとも多く（73.1%）、男性と同様に大学所在エリア外での就職で少なくなっ

いた。

「資格取得のための支援」では女性のみ1%水準で有意な差が見られた。「大学所在エリア/地元」で「役に立った+やや役に立った」と回答した者が多く(28.3%)、「大学所在エリア外/地元外」で少ない(13.6%)。

いずれも、大学から離れたところで就職活動を行った学生よりも、大学所在県での就職に役立つ傾向にあると言える。一方で「未定・海外」は他の移動パターンとは異なる傾向を見せる。「未定・海外」は、「大学所在エリア外」での内定者よりも役に立ったと回答する割合が全体的に多い。

それでは、大学所在エリアや大学所在エリア外で就職した者は、何が役立ったと考えているのだろうか。図表3-32では、就職のために役に立った情報源で3位までに入ったもののうち、移動パターンに有意な差があったもののみ示した。

図表3-32 移動パターン別 就職に役に立った情報源

		大学所在県		大学所在エリア		大学所在エリア外		未定・海外	
		地元	地元外	地元	地元外	地元	地元外		
男性	N	1712	397	394	186	303	589	2054	
	就職支援ウェブサイト	71.1	74.6	67.8	69.9	73.6	73.9	77.9	p=.000
	就職部・キャリアセンター	38.6	38.3	30.2	37.1	26.4	36.8	36.3	p=.001
	大学の先生	18.8	16.9	16.8	22.6	13.2	26.0	15.1	p=.000
	会社説明会やセミナーなど	65.8	67.8	61.7	57.5	62.4	58.7	69.8	p=.000
	公的な就職支援機関	4.7	2.5	9.1	5.4	7.9	1.9	1.9	p=.000
	家族・親族・保護者	16.5	10.3	23.9	17.2	28.1	13.4	13.6	p=.000
女性	N	2309	554	566	187	319	338	1430	
	就職支援ウェブサイト	74.4	76.5	71.4	74.9	73.7	82.2	82.4	p=.000
	就職部・キャリアセンター	46.6	40.4	41.9	36.4	30.7	28.1	35.5	p=.000
	大学の先生	10.3	10.8	11.7	12.8	8.8	16.9	7.5	p=.000
	会社説明会やセミナーなど	68.7	68.4	68.2	71.1	69.0	69.5	77.8	p=.000
	公的な就職支援機関	7.1	4.9	12.5	6.4	14.4	6.5	4.0	p=.000
	家族・親族・保護者	12.9	13.7	22.3	10.7	14.4	10.4	10.9	p=.000

注) 就職のために役に立ったと思う情報源のうち3位までの回答の割合のみを示した。

「就職支援ウェブサイト」は「未定・海外」でもっとも役に立ったと回答した者が多く(男性77.9%、女性82.4%)、大学所在エリアでの就職でもっとも少なかった。「就職支援ウェブサイト」は全国規模あるいは都市部中心であるか、大学周辺に特化したものであるかに分かれ、中規模のウェブサイトが欠如している可能性がある。

「就職部・キャリアセンター」は男女で意見が分かれる。もっとも役に立ったと回答した者は男女ともに<全地元>であったが(男性38.6%、女性46.6%)、男性では「大学所在エリア外/地元」で26.4%ともっとも少なく(女性は30.7%)、女性では「大学所在エリア外/地元外」で28.1%ともっとも少なかった(男性は36.8%)。

「大学の先生」は男女ともに2割を切るが、「大学所在エリア外/地元外」と「大学所在エリア/地元外」で役に立ったと回答した者が多い。勤務先が地元外で、かつ、大学所在県

でない場合に、大学の先生の意見や紹介が役立っていると考えられる。

「会社説明会やセミナーなど」は、「未定・海外」で役に立ったと回答している者が多い（男性 69.8%、女性 77.8%）。

「公的な就職支援機関」は、「大学所在エリア／地元」（男性 9.1%、女性 7.9%）、および「大学所在エリア外／地元」（男性 7.9%、女性 14.4%）で比較的多かった。地元で U ターン就職する者が「公的な就職支援機関」を利用するものと解釈できる。

「家族・親族・保護者」もまた、「大学所在エリア／地元」（男性 23.9%、女性 22.3%）、および「大学所在エリア外／地元」（男性 28.1%、女性 14.4%）で比較的多かった。これもまた、U ターン就職する者にとって「家族・親族・保護者」の支援があったと理解できよう。

4. まとめ

本章では、第 1 に、地域別の就職プロセス、職業意識、規範、労働市場の状況を明らかにすることで 11 に分類したエリアの特徴を把握した。第 2 に、高校－大学－就職の 2 時点の移動を 7 つにパターン化してその特徴を理解し、学生の移動パターンに影響を及ぼしている規定要因を分析し、さらに移動パターン別に就職活動と大学就職部に対する意見を探った。これらの分析から得た本章の結論は以下のとおりである。

1) 職業と性別に関する規範、学生の職業意識は地域、性別によって異なる。また、就職活動プロセスも地域、性別によって異なっている。

高校から大学への進学における移動、居住形態、保護者の関わり方、学生の職業意識、さらに就職プロセスに地域によって差が見られた。関東、近畿の大都市圏と中国（男性）、四国で就職プロセスが早く進んでいた。

また、多くの地域で職業意識、保護者の関わり、居住形態に男女差が見られた。就職プロセスでの男女差は関東と北陸以外で見られた。北海道、甲信越、中部、中国、四国、沖縄では男性のほうが就職プロセスが早く、東北、近畿、九州では女性の方が比較的早かった。

2) 学生の職業意識が移動パターンに反映される。

内定先が地元（高校所在県）であるか、地元外であるか、また、大学所在県であるか、大学所在エリアであるか、大学所在エリア外であるか、さらに、未定・海外であるかの 7 つに移動パターンを分類し、それぞれのパターンの特徴を見た。移動パターンは大学設置者や学部によって異なっていた。

移動パターンは、性別、保護者の意見や支援の有無、学生の職業意識、大学や高校の所在地（都市部にあるかどうか）、国立であるか私立であるか、によって異なっていた。

このような複合的な要因によって移動パターンが決定されているとすれば、ある地域に就職先がないからといって移動パターン（勤務先の地域）を変えるように学生を指導すること

は簡単なことではない。1) で述べたように、職業意識や保護者の関わり方が地域によって異なるということは、地域の労働市場の状況や職業規範、性別規範をすでに反映させた職業意識を学生が持っている可能性を示すものであるからである。

3) 移動パターンによって必要な就職支援が異なる。

移動パターンによって就職活動で役に立った情報や、就職部／キャリアセンターで役に立ったものが異なっていた。大学の就職部／キャリアセンターは大学周辺での就職支援には力を発揮するが、Uターン就職（とくに地元と大学が離れている場合）や大学所在県ではない場合の就職活動までは、その力がなかなか及ばないものと推測される。このような学生に対しては大学横断的な、より広い就職支援が必要であろう。

注

1) 以下で「隣県」を考える際には、「東京圏」の隣県として茨城県、栃木県、群馬県、山梨県、静岡県を想定し、「京阪神」の隣県として福井県、滋賀県、三重県、奈良県、和歌山県、鳥取県、岡山県、徳島県を想定している。

2) 以下、図表3-6、7、8、9、10で示した高校と大学が同じ都道府県内であった者に限った分析では、四国と沖縄で対象者数が少なくなっていることに留意する必要がある。

先行研究

本田由紀 1998「大卒女子の就職——性・専攻・ランクが就職に及ぼす影響とコース別採用の内実」岩内亮一、苅谷剛彦、平沢和司編『大学から職業へⅡ——就職協定廃止直後の大卒労働市場』広島大学大学教育研究センター

岩内亮一、苅谷剛彦、平沢和司編 1998『大学から職業へⅡ——就職協定廃止直後の大卒労働市場』広島大学大学教育研究センター

苅谷剛彦 1995『大学から職業へ——大学生の就職活動と格差形成に関する調査研究』広島大学大学教育研究センター

労働政策研究・研修機構 2006『大学生の就職・募集採用活動等実態調査結果Ⅱ——「大学就職部／キャリアセンター調査」及び「大学生のキャリア展望と就職活動に関する実態調査」』JIL PT 調査シリーズ No. 17

仙田幸子 1995「女子学生の就職先分化と納得度」苅谷剛彦編『大学から職業へ——大学生の就職活動と格差形成に関する調査研究』広島大学大学教育研究センター、pp.80-89

吉原恵子 1995「性差を組み込んだ場合の『大学ランク』の意味」苅谷剛彦編『大学から職業へ——大学生の就職活動と格差形成に関する調査研究』広島大学大学教育研究センター、pp.69-79